

2024年度入学生まで

中学校教諭一種免許状（保健体育）に係る授業科目

① 教科及び教科の指導法に関する科目

教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する開設授業科目		
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	単位数	授業科目	単位数	履修年次
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	28	○水泳	1	2
			○武道（柔道）	1	2
			○体づくり運動	1	2
			○陸上競技	1	2
			○ダンス	1	2
			○器械運動	1	3
			○球技（サッカー）	1	3
			○球技（テニス）	1	3
	「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）	※体育原理	2	2	
		※スポーツ心理学	2	2	
※スポーツ経営管理論		2	2		
※スポーツ社会学		2	3		
生理学（運動生理学を含む。）	※スポーツ文化史	2	2		
	○運動方法学	2	2		
	○運動生理学	2	2		
衛生学・公衆衛生学	○公衆衛生学	2	2		
学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）	○学校保健	2	2		
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	○保健体育科教育法Ⅰ	2	2		
	○保健体育科教育法Ⅱ	2	3		
	○保健体育科教育法Ⅲ	2	3		
	○保健体育科教育法Ⅳ	2	4		

<備考> 1. ○は本学教職課程必修科目

2. ※の5科目より2科目を選択必修

3. 中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状を取得しようとする者は、※の5科目についても必修

② 教育の基礎的理解に関する科目等

教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する開設授業科目						
科目	各科目に含めることが必要な事項	単位数	授業科目	単位数	履修年次				
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	○教育原理	2	1				
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		○教職入門（教師論）	2	1				
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		○教育社会学	2	1				
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		○教育心理学	2	3				
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		○特別支援教育総論	2	1				
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		○教育課程と方法	2	2				
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導に関する科目	道徳の理論及び指導法	10	○道徳教育	2	1				
	総合的な学習の時間の指導法		○特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2	2				
	特別活動の指導法		○教育方法論	2	2				
	教育の方法及び技術			1	3				
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法				○生徒指導	2	3		
	生徒指導の理論及び方法					○教育相談	2	3	
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法						○進路指導	2	3
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法							2	4
関する実践科目に	教育実習	5	○事前事後指導						2
	教職実践演習		○教育実習Ⅱ	4					4
			○教職実践演習（中・高）	2	4				

<備考>○は本学教職課程必修科目

③ 大学が独自に設定する科目

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	単位数	左記に対応する開設授業科目		
		授業科目	単位数	履修年次
大学が独自に設定する科目	4	最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」	4	1～4

④ 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	単位数	左記に対応する開設授業科目		
		授業科目	単位数	履修年次
日本国憲法	2	○日本国憲法	2	1
体育	2	○スポーツA	1	1
		○子どもスポーツ論	2	2
外国語コミュニケーション	2	○英語 I	2	1
数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は情報機器の操作	2	○情報処理基礎 I	2	1

<備考>○は本学教職課程必修科目

高等学校教諭一種免許状（保健体育）に係る授業科目

① 教科及び教科の指導法に関する科目

教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する開設授業科目		
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	単位数	授業科目	単位数	履修年次
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	24	○水泳	1	2
			○武道（柔道）	1	2
			○体づくり運動	1	2
			○陸上競技	1	2
			○ダンス	1	2
			○器械運動	1	3
			○球技（サッカー）	1	3
			○球技（テニス）	1	3
		「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）	○体育原理	2	2
			○スポーツ心理学	2	2
生理学（運動生理学を含む。）	○スポーツ経営管理論	2	2		
	○スポーツ社会学	2	3		
衛生学・公衆衛生学	○スポーツ文化史	2	2		
	○運動方法学	2	2		
学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）	○運動生理学	2	2		
	○公衆衛生学	2	2		
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	○学校保健	2	2		
	○保健体育科教育法Ⅰ	2	2		
	○保健体育科教育法Ⅱ	2	3		
	○保健体育科教育法Ⅲ	2	3		
			○保健体育科教育法Ⅳ	2	4

<備考>○は本学教職課程必修科目

② 教育の基礎的理解に関する科目等

教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する開設授業科目		
科目	各科目に含めることが必要な事項	単位数	授業科目	単位数	履修年次
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	○教育原理	2	1
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		○教職入門（教師論）	2	1
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		○教育社会学	2	1
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		○教育心理学	2	3
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		○特別支援教育総論	2	1
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		○教育課程と方法	2	2
道徳、総合的な学習の時間等の指導に関する科目	総合的な探究の時間の指導法	8	○特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2	2
	特別活動の指導法				
	教育の方法及び技術		○教育方法論	2	2
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		○情報通信技術の活用	1	3
	生徒指導の理論及び方法		○生徒指導	2	3
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		○教育相談	2	3
進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	○進路指導	2	3		
教育に関する実践科目	教育実習	3	○事前事後指導	2	3・4
			○教育実習Ⅰ	2	4
	○教育実習Ⅱ	4	4		
教職実践演習	2	○教職実践演習（中・高）	2	4	

<備考> 1. ○は本学教職課程必修科目

2. 教育実習について、高等学校教諭一種免許状のみを取得しようとする者は「教育実習Ⅰ」を履修、中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状を取得しようとする者は「教育実習Ⅱ」を履修

③ 大学が独自に設定する科目

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	単位数	左記に対応する開設授業科目		
		授業科目	単位数	履修年次
大学が独自に設定する科目	12	最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」	12	1～4

④ 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	単位数	左記に対応する開設授業科目		
		授業科目	単位数	履修年次
日本国憲法	2	○日本国憲法	2	1
体育	2	○スポーツA	1	1
		○子どもスポーツ論	2	2
外国語コミュニケーション	2	○英語 I	2	1
数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は情報機器の操作	2	○情報処理基礎 I	2	1

<備考>○は本学教職課程必修科目

中学校教諭一種免許状（保健体育）に係る授業科目

① 教科及び教科の指導法に関する科目

教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する開設授業科目		
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	単位数	授業科目	単位数	履修年次
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	28	○体づくり運動	1	2
			○ダンス	1	2
			○武道（柔道）	1	2
			※1球技（サッカー）	1	2
			※1球技（ハンドボール）	1	2
			○球技（ソフトボール）	1	2
			○水泳	1	3
			○陸上競技	1	3
			○器械運動	1	3
			※2球技（テニス）	1	3
※2球技（バドミントン）	1	3			
「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）	※3体育原理	2	2		
	※3スポーツ心理学	2	2		
	※3スポーツ経営管理論	2	2		
	※3スポーツ社会学	2	3		
	※3体育・スポーツ史	2	2		
○運動方法学	2	2			
生理学（運動生理学を含む。）	○運動生理学	2	2		
衛生学・公衆衛生学	○公衆衛生学	2	2		
学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）	○学校保健	2	2		
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	○保健体育科教育法Ⅰ	2	2		
	○保健体育科教育法Ⅱ	2	3		
	○保健体育科教育法Ⅲ	2	3		
	○保健体育科教育法Ⅳ	2	4		

<備考> 1. ○は本学教職課程必修科目

2. ※1の2科目より1科目を選択必修

3. ※2の2科目より1科目を選択必修

4. ※3の5科目より2科目を選択必修

5. 中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状を取得しようとする者は、※3の5科目についても必修

② 教育の基礎的理解に関する科目等

教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する開設授業科目		
科目	各科目に含めることが必要な事項	単位数	授業科目	単位数	履修年次
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	○教育原理	2	1
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		○教職入門（教師論）	2	1
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		○教育社会学	2	1
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		○教育心理学	2	3
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		○特別支援教育総論	2	1
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		○教育課程と方法	2	2
道徳、総合的な学習の時間等の指導に関する科目	道徳の理論及び指導法	10	○道徳教育	2	1
	総合的な学習の時間の指導法		○特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2	2
	特別活動の指導法				
	教育の方法及び技術		○教育方法論	2	2
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		○情報通信技術の活用	1	2
	生徒指導の理論及び方法		○生徒指導	2	3
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		○教育相談	2	3
進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	○進路指導	2	3		
教育に関する実践科目	教育実習	5	○事前事後指導	2	3・4
			○教育実習Ⅱ	4	4
	教職実践演習	2	○教職実践演習（中・高）	2	4

<備考>○は本学教職課程必修科目

③ 大学が独自に設定する科目

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	単位数	左記に対応する開設授業科目		
		授業科目	単位数	履修年次
大学が独自に設定する科目	4	最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」	4	1～4

④ 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	単位数	左記に対応する開設授業科目		
		授業科目	単位数	履修年次
日本国憲法	2	○日本国憲法	2	1
体育	2	○スポーツA	1	1
		○運動と健康	2	1
外国語コミュニケーション	2	○英語 I	2	1
数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は情報機器の操作	2	○情報処理基礎 I	2	1

<備考>○は本学教職課程必修科目

高等学校教諭一種免許状（保健体育）に係る授業科目

① 教科及び教科の指導法に関する科目

教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する開設授業科目		
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	単位数	授業科目	単位数	履修年次
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	24	○体づくり運動	1	2
			○ダンス	1	2
			○武道（柔道）	1	2
			※1球技（サッカー）	1	2
			※1球技（ハンドボール）	1	2
			○球技（ソフトボール）	1	2
			○水泳	1	3
			○陸上競技	1	3
			○器械運動	1	3
			※2球技（テニス）	1	3
			※2球技（バドミントン）	1	3
	「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		○体育原理	2	2
			○スポーツ心理学	2	2
			○スポーツ経営管理論	2	2
			○スポーツ社会学	2	3
			○体育・スポーツ史	2	2
			○運動方法学	2	2
	生理学（運動生理学を含む。）		○運動生理学	2	2
	衛生学・公衆衛生学		○公衆衛生学	2	2
	学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）		○学校保健	2	2
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		○保健体育科教育法Ⅰ	2	2
			○保健体育科教育法Ⅱ	2	3
			○保健体育科教育法Ⅲ	2	3
			○保健体育科教育法Ⅳ	2	4

<備考> 1. ○は本学教職課程必修科目

2. ※1の2科目より1科目を選択必修

3. ※2の2科目より1科目を選択必修

② 教育の基礎的理解に関する科目等

教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する開設授業科目		
科目	各科目に含めることが必要な事項	単位数	授業科目	単位数	履修年次
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	○教育原理	2	1
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		○教職入門（教師論）	2	1
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		○教育社会学	2	1
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		○教育心理学	2	3
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		○特別支援教育総論	2	1
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		○教育課程と方法	2	2
道徳、総合的な学習の時間等の指導に関する科目	総合的な探究の時間の指導法	8	○特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2	2
	特別活動の指導法				
	教育の方法及び技術		○教育方法論	2	2
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		○情報通信技術の活用	1	2
	生徒指導の理論及び方法		○生徒指導	2	3
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		○教育相談	2	3
教育実践に関する科目	教育実習	3	○事前事後指導	2	3・4
			○教育実習Ⅰ	2	4
			教育実習Ⅱ	4	4
	教職実践演習	2	○教職実践演習（中・高）	2	4

<備考> 1. ○は本学教職課程必修科目

2. 教育実習について、高等学校教諭一種免許状のみを取得しようとする者は「教育実習Ⅰ」を履修、  
 中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状を取得しようとする者は「教育実習Ⅱ」を履修

③ 大学が独自に設定する科目

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	単位数	左記に対応する開設授業科目		
		授業科目	単位数	履修年次
大学が独自に設定する科目	12	最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」	12	1～4

④ 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	単位数	左記に対応する開設授業科目		
		授業科目	単位数	履修年次
日本国憲法	2	○日本国憲法	2	1
体育	2	○スポーツA	1	1
		○運動と健康	2	1
外国語コミュニケーション	2	○英語 I	2	1
数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は情報機器の操作	2	○情報処理基礎 I	2	1

<備考>○は本学教職課程必修科目

授業名	水泳（1・2限連続）
Course	Swimming
単位数	1単位
担当教員名	◎和所 泰史
授業形態	実技
授業の概要	この講義では、以下の3点を柱として、水泳の指導スキルを身に付ける事を目標とする。①泳法を理解・修得し、修得に向けて効果的に段階的な指導ができるようになる。②水難事故の予防や回避の為に知識とスキルを身に付け、その指導ができるようになる。③水の特性を活かし、健康や競技のための活用法を紹介、指導できるようになる。泳法では基本の4泳法（ターンやけのびなども含む）と共に、救助法や水難事故の際にも役立つ泳ぎや指導の際に興味を惹く技などを学ぶ。水の物理的、生理的特性を学び、プールでの事故や怪我を防ぎ、水難事故を予防・回避できるようにする。また水の特性を活かして、健康や競技のための、コンディショニングやリラクゼーション、怪我予防などの水中運動についても学ぶと同時に指導法を身に付ける。
授業の到達目標	1. クロール・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライの4泳法をマスターし、それぞれの動きの特性を理解するとともに、効率的な段階指導を知る。 2. 4泳法におけるつまづきやすい動きを理解し、その指導法を知る。それに伴う補助のスキルを身につける。 3. クロールおよび平泳ぎで50m以上泳げること。 4. 水の特性を物理的、生理的、医学的に理解する。 5. 水の特性を、コンディショニングやリラクゼーション、怪我予防、健康作りなどに活かす方法などを理解する。
提出課題等	担当内容の指導案の提出を課す。
成績の評価方法・基準	到達目標への到達度（60％）、模擬授業（40％）の内容から評価する。
テキスト	特に指定しない
参考書	「学校体育実技指導資料第4集 水泳指導の手引き（三訂版）」文部科学省 「水泳指導教本」（日本水泳連盟編、大修館書店） 「中学校学習指導要領解説 保健体育編」（文部科学省、東山書房） 「高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編」（文部科学省、東山書房）
履修条件	なし
事前学習	与えられた模擬授業の課題について、資料や書籍、DVDなどを見て学習し、実際に自身で動いて動作や見本の確認をし、指導案を作成する。（2時間）
事後学習	講義の内容を参考にして、自己の泳力向上を図り、さらなる指導力の向上に励むこと。（2時間）
履修上の留意点	競泳用水着、水泳キャップ、ゴーグルの着用を義務づけます。 プール施設や一般のプール利用者に迷惑をかけないようにしてください。 教員を目指す者としてふさわしい振る舞いを求めます。 プールのコースの関係上、履修制限を設けます（40名）。
シラバス自由項目1	
知識・理解【基礎理論】	20
思考・判断・表現【課題】	30
関心・意欲・態度【当】	20
技能【情報リテラシー】	30

**授業計画（テーマ、スケジュール）**

No	担当教員	授業内容
1		ガイダンス。 水の物理的特性・生理的特性を学ぶ。 水泳に関するワードを知る。
2		水中歩行（基本編） けのび、立ち方
3		クロールと背泳ぎのキック
4		水中運動（基本編） プールでの呼吸、回転
5		スカーリング クロールのストロークとコンビネーション
6		水中歩行（応用編：コンディショニング） クロール上級
7		フリップターン 平泳ぎのキック
8		水中運動（応用編：コンディショニング） 平泳ぎのストロークとコンビネーション
9		背泳ぎのキック、ストローク、コンビネーション
10		タッチターン 平泳ぎ上級
11		ドルフィンキック・バサロキック 背泳ぎ上級
12		バタフライのストロークとコンビネーション 水中運動（応用編：健康・リラクゼーション）
13		エレメンタリーバックストローク
14		実技再チェック、知識のチェック（小テスト） まとめ
15		総括

授業名	武道（柔道）
Course	Sports III
単位数	1単位
担当教員名	◎船越 雅人
授業形態	実技
授業の概要	柔道は、稽古の積み重ねを通して、瞬発力、持久力、調整力などを養うことができ、さらに相手と格闘し合う対応の中で旺盛な気力、礼儀、克己、公正、遵法などの態度を養うことが期待できる。柔道は、嘉納治五郎が、我が国の伝統的な武技の一つであった柔術を新しい原理のもとに集大成して創始したものであり、その目的とするところは、相手との稽古等を通じて身体や精神を鍛錬修養し、それによって自己を完成し、社会に役立つ人間を育成するところであり、この考え方は、柔道の教育的な意義を強調すると共に、心身の発育・発達への効果面を重視している。ここでは、こうした柔道の心身の発育・発達への効果を重視した授業を行う。技術内容としては、立ち技・寝技・崩し・受け身などであり、授業において、技術レベルに応じた練習及びその指導法について身に付ける。また、試合の行い方、審判法、競技会の運営の方法についても身に付ける。
授業の到達目標	柔道の基本動作・対人的技能を習得し、柔道の指導に生かすことが出来る能力を養うことが本授業の目標である。その目標に向けての具体的到達目標は以下の通りである。（以下の到達目標はA評価に相当するものを示す。 1. 柔道の技術について 1) 姿勢と組み方、身体動作、体捌き、単独で行う受身などの基本動作が出来る。 2) 投技では、投げられた時にしっかりと受身が出来る、相手を崩して技を掛けることが出来る、対人的技能を行うことが出来る。 3) 固め技では、正しい抑え技の形を習得し、絞技と関節技をも含めた固め技の理合いを理解し、簡単な攻防が出来る。 4) 基本的な試合・審判規定を理解することが出来る。 2. 指導法について 1) 基本動作、対人的技能の指導計画を立てることが出来る。 2) 基本動作の指導が出来る。
提出課題等	各自授業ノート（配布資料等を張り付ける関係上A3判のノートがのぞましい）を作成し、授業終了後に提出してもらう。
成績の評価方法・基準	「学習到達目標」の達成レベルを評価Aとし、1. 実技試験（40点）、2. ノート整理・まとめ、レポート（30点）、3. 授業への取り組み（30点）とし、総合的に評価する。
テキスト	なし
参考書	・DVDでわかる 柔道入門 中西英敏著（西東社） ・少年柔道 基本げいこ 中西英敏著（大泉書店） ・その他 随時参考資料を配布
履修条件	なし
事前学習	授業の最後に次回の内容を伝えるので、その内容の意味や用語について調べておくこと。
事後学習	時間ごとの授業内容が理解できたか自己評価し、次回の授業までに理解しておくこと。
履修上の留意点	1 各自、柔道衣を用意する。 2 柔道は基本を正しく学べば安全である。 3 実技であるので欠席は避ける。欠席をする場合には事前に連絡をする。
シラバス自由項目1	DVD等ビデオ教材機器
知識・理解【基礎理論】	30
思考・判断・表現【課題】	0
関心・意欲・態度【当】	30
技能【情報リテラシー】	40

授業計画（テーマ、スケジュール）

No	担当教員	授業内容
1		ガイダンス、授業概要（学習の到達目標）、授業の進め方、怪我防止について、柔道の導入(柔道の歴史・特性について VTR上映等)
2		柔道の基礎知識(日本の伝統文化・世界のスポーツとしての柔道) 柔道衣について（道衣の各部位の名称と道衣の着方と道衣の特性）基本動作（礼法：座礼、立礼⇒正座の仕方・立ち方）
3		基本動作（姿勢・進退動作・体捌き・組み方） 基本動作(受け身：後ろ受け身)、相手を崩して投げる理論
4		基本動作(受け身：後ろ受け身、横受け身)、体さばき、崩し
5		基本動作(受け身：後ろ受け身、横受け身、前受け身、前回り受け身) 対人的技能(投技：大腰)・体さばき(後ろ回りさばき)
6		対人的技能(投技：大腰、体落、背負投)・体さばき(後ろ回りさばき)
7		対人的技能(投技：大腰、体落、背負投 足技：大内刈り、小内刈りの基礎)・体さばき(後ろ回りさばき)
8		対人的技能(投技：担ぎ技・大腰、体落、背負投)
9		対人的技能(投技：足技・膝車、支え釣込み足、大外刈り)・投技の約束練習
10		対人的技能(投技：足技・小内刈、大内刈)・投技の連絡技
11		対人的技能(投技：足技・小内刈、大内刈)・投技の連絡技 対人的技能(固め技：袈裟固、横四方固、崩れ上四方固)・固め技の約束練習
12		対人的技能(固め技：絞め技、関節技、投技：大内刈り、小内刈り)・約束練習
13		対人的技能(技の連絡変化：投技から投技)・約束練習 対人的技能(審判規定と試合の方法：約束試合)、柔道指導法について
14		実技試験及びまとめ
15		総括

授業名	体づくり運動
Course	Sports 1
単位数	1単位
担当教員名	◎高橋 和子 伊藤 麻希
授業形態	講義
授業の概要	体づくり運動は、「体ほぐしの運動」「体の動きを高める運動」「実生活に生かす運動の計画」から構成されている。体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気づき、仲間と自主的に関わり合うことを学習する。体の動きを高める運動では、体の柔らかさ、巧みさ、力強さ、動きを継続する能力を高める運動を行うと共に、それらを組み合わせる運動を学習する。実生活に生かす運動の計画では、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための運動の計画を立てることを学習する。併せてそれらの指導法を身に付ける。
授業の到達目標	1) 体づくり運動の文化的背景、教育的・心理的効果を理解している。 2) 「体ほぐしの運動」「体の動きを高める運動」「実生活に生かす運動の計画」の特性を理解している。 3) 体づくりに応じた指導方法を身に付けている。 4) 体づくりに取り扱うICT機器（音響・映像等）を効果的に活用することができる。
提出課題等	1) 授業のまとめを毎時間行い（200字以上）、提出する。 2) 最終レポートとして、「体づくり運動に関する資料（指導案：目標・教材・授業の進め方：千字以上）」を提出する。 3) 提出は教務システムLMS（moca）に行う。
成績の評価方法・基準	下記の項目結果を、本授業科目のルーブリックに適用し、成績評価を行う。 1) 毎回提出される課題のポートフォリオ50% ・遅刻者・出席番号未記入・mocaパスワード未送信者は、出席1/2回 ・試合、実習、入院、急引等は申告（本シート当該日欄に問合せ者・電話等記載、選手以外は対象外）により出席1/2～1回 ・途中入退室、書き写し、代筆等は関係者全員欠席扱い ・初回授業参加学生のみ履修を認める。欠席者は理由に関する証明書提出（診断書・事故証明書等）やむを得ない欠席や遅刻、感染拡大予防を理由とした場合、課題にて対応（千字/1回：mocaに提出） 2) 模擬授業20% 3) 最終レポート（体づくり運動の指導案作成）30%
テキスト	1) 文部省（2000）体づくり運動；授業の考え方と進め方、東洋館出版社 2) 日本女子体育連盟（2012）心と体をほぐすウォームアップ集、vol54-8（授業時に定価1,200円→500円で販売）
参考書	1) 高橋和子編者（1995）表現：風のためがががががとき、不昧堂出版 2) 小澤治夫他(2022)授業が盛り上がる体育の教材・教員ベスト90、大修館書店
履修条件	・怪我をしていても、状況に応じて行うこと。 ・欠席・遅刻は原則、認めない。 ・模擬授業担当時に欠席した場合は、追試の対象となる。
事前学習	1) 前回の授業内容を十分に復習しておく。次回の内容について、テキストや資料を読み込んでおくこと（2時間）。 2) 高橋和子公式ウェブサイト <a href="http://kazuko-yuu.jp">http://kazuko-yuu.jp</a> メニュー「からだ気づき」の映像なども参考にする。
事後学習	1) テキストや高橋和子公式ウェブサイト、配布プリント等を参照し、授業内容を復習し、専門用語の意味等を理解しておく（2時間）。 2) 既習内容をノートに記述し、振り返ること。
履修上の留意点	1) 履修制限 40名とする。 2) 運動のできる服装（ジーパンは禁止）、水分補給のための飲料水、屋外で行う場合はシューズや帽子、タオル等をご用意ください。
シラバス自由項目1	1) 学生持参のスマートフォンにより、授業時に映像や音楽、資料調査を行うことがある。 2) 体づくりの動き（自分・グループ）を撮影したり、曲の選択や編集をしたりするなど、情報機器を活用できるようにする。 3) 教務システムLMS（moca）に課題を教員に提出する。
知識・理解【基礎理論】	20
思考・判断・表現【課題】	20
関心・意欲・態度【当】	20
技能【情報リテラシー】	40

授業計画（テーマ、スケジュール）		
No	担当教員	授業内容
1		オリエンテーション（単元の全容を知る） エアロビックダンス マインドフルネス
2		ボディ・ワークを知る① ヨガ、ピラティス、アレキアンダー・テクニーク
3		ボディ・ワークを知る② フェルデン・クライス・メソッド、Body-Mind Centering、ストレッチ
4		ボディ・ワークを知る③ 操体法、野口体操、呼吸法
5		体ほぐしの運動① 身体の状態に気づく
6		体ほぐしの運動② 心の状態に気づく
7		体ほぐしの運動③ 文化と関わる（磐田における徳川家康の足跡をたどる）
8		体ほぐしの運動④ 仲間と共に動く
9		体の動きを高める運動① 体の柔らかさを高める
10		体の動きを高める運動② 体の巧みさを高める
11		体の動きを高める運動③ 動きを継続する能力を高める（エアロビックダンス）
12		実生活に生かす運動の計画① 自然と関わる（自然探案）
13		実生活に生かす運動の計画② 模擬指導（体ほぐしの運動から選択）
14		実生活に生かす運動の計画③ 模擬授業（体の動きを高める：エアロビックダンス）まとめ
15		総括

授業名	陸上競技（1・2限連続）
Course	Sports VII
単位数	1単位
担当教員名	◎江間 諒一
授業形態	実技
授業の概要	陸上競技は、走・跳・投運動の種目から成り、これらの運動で必要となる技能は他のスポーツを堪能するためにも欠かせない。またこれらの運動を通して身に付ける動作や技能は生活上にも大きな役割を果たしている。本授業では、これら種目の中の代表的な短距離走、走り幅跳び、走り高跳び、砲丸投げ、あるいはハードル走などの練習方法や競技方法・用具の扱いや管理、安全な運動実践の方法などを学び、かつこれらの指導方法を身に付ける。
授業の到達目標	①陸上競技（走・跳・投）の基本的技能を習得し、それぞれの運動の仕組みを理解できる。 ②陸上競技の特性、指導目的および評価法を理解できる。 ③基礎的な理論および技能を活かし、他者に陸上競技の指導を行える。
提出課題等	課題レポート、期末レポートの提出を求める。なお、レポートの評価は、①指示した形式と提出期限を守っているかどうか、②参考文献等を活用し、客観的な事実と自分の考えを具体的に書いているかどうかを基準に評価する。
成績の評価方法・基準	・各種目の基本的技能の習得状況 50点 ・課題レポート 20点 ・期末レポート 30点 なお、出席が規定に満たない場合、評価対象としない（全出席が原則）。
テキスト	なし
参考書	陸上競技指導教本（基礎理論編）、日本陸上競技連盟編、大修館書店 陸上競技指導教本（種目別実技編）、日本陸上競技連盟編、大修館書店
履修条件	なし
事前学習	学習指導要領の陸上競技の内容について理解をしておく(2時間)。
事後学習	配布したプリント等により学習内容を振り返る(2時間)。
履修上の留意点	・履修人数の上限を40名とする。 ・初回の授業は体育館および屋外で行う。運動のできる格好、内履きシューズ、外履きシューズを準備すること。 ・悪天候により屋外で実施できない際は、陸上競技に関する文献調査等を行うことがある。詳細は授業時に説明する。
シラバス自由項目1	学生持参のスマートフォンを活用して、履修学生同士の動きを撮影し、授業に活用することがある。
知識・理解【基礎理論】	20
思考・判断・表現【課題】	20
関心・意欲・態度【当該】	50
技能【情報リテラシー】	10

授業計画（テーマ、スケジュール）

No	担当教員	授業内容
1		陸上競技の特性およびルールの解説と評価法について説明
2		短距離種目（1）100m・200m・400m
3		短距離種目（2）ハードル走・ハードリング動作
4		短距離種目（3）ハードル走・タイムトライアル
5		短距離種目（4）4×100mR
6		中距離種目（アネロビクス運動とエアロビクス運動）
7		長距離種目（心拍数で運動強度をコントロールする）
8		跳躍種目（1）走り高跳び
9		跳躍種目（2）走り幅跳び・三段跳び
10		投擲種目（1）砲丸投げ・円盤投げ
11		投擲種目（2）やり投げ
12		混成競技（走・跳・投の混成競技トライアル）
13		陸上競技の指導法（観察による運動評価）
14		課題提出と解説、実技チェックと解説
15		総括、期末レポート

授業名	ダンス	
Course	Sports IK	
単位数	1単位	
担当教員名	◎高橋 和子 伊藤 嘉希	
授業形態	講義	
授業の概要	身体表現のもっとも代表的なダンスは、古来から近現代においても、生活や文化に欠かせないものになっている。それらの背景を踏まえ、他者やものと身体でかかわる視点や、コミュニケーションツール（自己表現）の視点から、ダンスを考察する。具体的には、ダンスの素材である身体、リズムや動きの探求などを通じ、ダンスの基礎的技術を学習する。その後、創作ダンスを舞台上演するための創作技能、上演技能、作品制作や舞台上演の知識を学ぶと共に、各役割に対して責任を持ち舞台に立つことを目指す。また、能力レベルに応じた指導の方法を身に付ける。	
授業の到達目標	1) ダンスの歴史的・文化的背景、教育的・心理的効果を理解している。 2) 表現系ダンス・リズム系ダンス・フォークダンス系ダンスの特性を理解している。 3) 各ダンス領域に応じた指導方法を身に付けている。 4) ダンスで取り扱うICT機器（音響・映像等）を効果的に活用することができる。	
提出課題等	1) 授業のまとめを毎時間200字以上で記述し、提出する。 2) 最終レポートとして、グループ作品発表、並びに、個人作品発表に関する資料を提出する。 3) 提出は教務システムLMS（moca）に行う。	
成績の評価方法・基準	下記の項目結果を、本授業科目のルーブリックに適用し、成績評価を行う。 1) 毎回提出される課題のポートフォリオ40% 2) 模擬授業10% 3) 作品発表30% 4) 最終レポート20%	
テキスト	1) 文部科学省（2013）表現運動系およびダンス指導の手引き、東洋館出版社 2) 日本女子体育連盟（2011）単元とさらに進んだ素材集.vol.53-8（授業時に販売する）	
参考書	1) 小澤治夫・小林寛道監修、高橋和子他（2018）スポーツの科学と教育「ダンスの科学」、ベースボールマガジン社 2) 高橋和子公式ウェブサイト <a href="http://kazuko-ynu.jp">http://kazuko-ynu.jp</a> に掲載された「文部科学省・スポーツ庁委託事業報告書 平成26・27・28・29年度」	
履修条件	1) 怪我をしていてもダンスはできるので、状況に応じて行うこと。 2) 欠席・遅刻は原則、認めない。 3) 模擬授業担当時に欠席した場合は、単位認定できない。 4) 備考 ①「静岡県産大学ダンスの調べ」2025年12月20日 静岡市民文化会館 に出演すること。 ②遅刻者・出席番号未記入・mocaパスワード未送信者は、出席1/2回 ③試合、実習、入院、急引等は申告（問合せ者・電話等記載・選手以外は対象外）により出席1/2～1回 ④途中入室、書き直し、代筆の不正記入等は関係者全員欠席扱い ⑤初回授業参加学生のみ履修を認める。欠席者は理由に関する証明書提出（診断書・事故証明書等） ⑥やむを得ない欠席や遅刻、感染拡大予防を理由とした場合、課題にて対応（千字1回：mocaに提出）	
事前学習	1) 授業の最後に次時の内容を伝えるので、事前学習を必ず行うこと。 2) 授業内で発表や模擬指導を行う機会があるので、事前に準備あるいはグループの場合は互いの意見交換や作業を行っておくこと。 3) 最終レポートを作成する上で必要な知識、情報を収集しておく。 4) 高橋和子公式ウェブサイト <a href="http://kazuko-ynu.jp">http://kazuko-ynu.jp</a> メニュー「ダンス」の映像なども参考にする。	
事後学習	1) テキストや高橋和子公式ウェブサイト、配布プリント等を参照し、授業内容を復習し、専門用語の意味等を理解しておく（2時間）。 2) 履修内容をノートに記述し、振り返ること。	
履修上の留意点	1) 履修制限 40名とする。 2) 身体表現やコミュニケーションに興味がある学生、意欲的な態度で授業に望む学生を望む。 3) マナー（遅刻しない・私語を慎む・話を聴く・動ける服装・髪を結ぶ・装身具を取る・脱帽等）を守らない場合は履修放棄として単位を認めない。	
シラバス自由項目1	1) 学生持参のスマートフォンにより、授業時に映像や音楽、資料調査を行うことがある。 2) ダンスの動きや作品（自分・グループ）を撮影したり、曲の選択や編集をしたりするなど、情報機器を活用できるようにする。 3) 教務システムLMS（moca）、あるいは、k-takahashi@ssu.ac.jpに、学生は課題を教員に提出する。	
知識・理解【基礎理論】	20	
思考・判断・表現【課題】	20	
関心・意欲・態度【当】	20	
技能【情報リテラシー】	40	
<b>授業計画（テーマ、スケジュール）</b>		
No	担当教員	授業内容
1		オリエンテーション（単元の全容を知る） ダンスの3種類（表現・リズム・フォークダンス） フォークダンスを体験する
2		ダンスウォームアップ
3		ダンス動画鑑賞 指導法・上演作品
4		フォークダンス系 外国のフォークダンス・日本の民謡
5		現代的なリズムのダンス① ロック
6		現代的なリズムのダンス② ヒップホップ
7		創作ダンス① 課題に対応するダンスウォームアップ（学生による模擬授業） 身近な生活や日常動作から
8		創作ダンス② 課題に対応するダンスウォームアップ（学生による模擬授業） 対極の動きの連続から
9		創作ダンス③ 課題に対応するダンスウォームアップ（学生による模擬授業） 多様な感じの動きから
10		創作ダンス④ 課題に対応するダンスウォームアップ（学生による模擬授業） 群の動きを構成して
11		創作ダンス⑤ 課題に対応するダンスウォームアップ（学生による模擬授業） ものを使った動きから
12		舞台上演法① 舞台用語を知る・上手・下手・板付き・照明・袖幕・7ドイ 照明家の働き方
13		舞台上演法② 音楽・衣装・照明・ICTとの関係（撮影・編集等）
14		舞台上演法③ 12/26日18時～ 静岡市民文化会館 リハーサル・本番
15		総括 ソロ試験（1分以上・音楽衣装付き）

授業名	器械運動
Course	
単位数	1単位
担当教員名	◎宮崎 彰吾
授業形態	実技
授業の概要	本授業では、マット、跳び箱、鉄棒などの器械や用具を使用して、それぞれの特徴を生かした基本的な技術や、練習方法及び理論について学ぶ。その際に、学習者自身が自己の身体の動かし方に意識を持ち、創意工夫しながら、「できない」ことを「できる」ようにすることが重要である。また、個人の技能レベルに応じた技術習得だけでなく、実践を通じて運動を多角的に理解し、他者の運動に対しても適切なアドバイスや補助ができるようになることを目指し、かつ指導の方法を身に付ける。
授業の到達目標	器械運動の歴史や特性の理解、基本技の習得およびその指導法について学ぶことが本授業の目標である。 具体的目標は以下の通りである。 ①器械運動の歴史・特性を理解し、できる楽しさ・達成の楽しさについて理解している。 ②基本的な技を実施できること、その習得の際に仲間と協力し工夫することができる。 ③段階的指導（練習）の計画を立てることができ、効果的な補助法（補助法）について理解している。
提出課題等	器械運動の指導法（練習法）に関するレポートを課す。
成績の評価方法・基準	ルーブリックに適用し、実技試験、レポートの結果や課題への取り組み状況に基づき、成績評価を行う。
テキスト	なし
参考書	・「中・高校 器械運動の授業づくり」三木四郎、本村清人、加藤澤雄（大修館書店） ・「器械運動の授業づくり」高橋健夫、長野淳次朗、三木四郎（大修館書店）
履修条件	なし
事前学習	授業の最後に次回の内容を伝える。配布プリント等を読み込んでおくこと。 器械体操に関する情報収集に努めること。
事後学習	授業の内容を整理し、次回授業までに理解を深め、授業に臨むこと。復習のための課題を与える場合もある。
履修上の留意点	履修制限40名とする。 運動にふさわしい服装での参加を厳守すること。 髪の毛が長い学生はゴムなどでまとめること。 使用する器械や用具は丁寧に扱うこと。
シラバス自由項目1	自身の動きを記録や他者との比較をするために、スマートフォンやタブレットPCなどを使うことがある。
知識・理解【基礎理論】	20
思考・判断・表現【課題】	10
関心・意欲・態度【当該】	40
技能【情報リテラシー】	30

授業計画（テーマ、スケジュール）

No	担当教員	授業内容
1		授業概要の説明と注意事項 器械運動の歴史と特性
2		器械運動的準備運動および基礎トレーニング
3		器械運動的感覚トレーニング
4		マット運動①（巧技系と回転系の基礎）
5		マット運動②（回転系接転群の基礎）
6		マット運動③（回転系ほん転群の基礎）
7		マット運動④（まとめ、習熟度確認テスト）
8		鉄棒運動①（支持回転系後方回転群）
9		鉄棒運動②（支持回転系前方回転群）
10		鉄棒運動③（まとめ、習熟度確認テスト）
11		跳び箱運動①（切り返し系の技）
12		跳び箱運動②（回転系の技）
13		跳び箱運動③（まとめ、習熟度確認テスト）
14		実技試験（演技発表会）準備 器械運動の評価法
15		実技試験（演技発表会）

授業名	球技（サッカー）
Course	
単位数	1単位
担当教員名	◎中西 健一郎
授業形態	実技
授業の概要	サッカーは多くのスポーツ種目の中で最も愛好する人口の多い球技であり、学校を始めとして地域社会でも多くの人々が実践している。本授業では、ボールを止める（トラップ）・動かす（ドリブル）・蹴る（キック）などの基礎的技術を習得すると同時にその効果的な練習法を学ぶ。また個人戦術・グループ戦術を学び、さらに守備と攻撃の方法についてもタスクゲーム（ミニゲームなど）を通じて理解し学習する。またこれらの指導法を身に付ける。
授業の到達目標	サッカーの「技術」「戦術」「体力」における基本的な知識を習得・活用して、実際の指導場面で有効なコーチングを実践するためのスキル獲得を目標とする。
提出課題等	なし。
成績の評価方法・基準	筆記試験50% 実技試験50%
テキスト	なし。
参考書	特に指定しないが、授業内において配布した資料を参考として学習を進める。
履修条件	なし。
事前学習	授業の最後に次回の内容を伝えるので、資料を読んでおくこと。
事後学習	授業で学習した内容に関する用語や説明された次回の授業内容との関連性について学習しておくこと。
履修上の留意点	運動に適した服装、シューズを用意してください。 ジーパンなど運動着以外の着用は認めません。また、ピアス、ヘアピンなどの装飾品は着用しないでください。「めがね」は個人の責任で着用して結構です。実技の際の安全確保のため履修人数を40名に制限します。履修希望者は必ず第1回目の授業に参加してください。
シラバス自由項目1	持参したスマートフォンにより実技のフォーム等を録画し、教材として活用します。
知識・理解【基礎理論】	30
思考・判断・表現【課題】	30
関心・意欲・態度【当該】	20
技能【情報リテラシー】	20

**授業計画（テーマ、スケジュール）**

No	担当教員	授業内容
1		ガイダンス 授業概要に関する説明・サッカーの基本的な指導知識の学習する。
2		サッカーコーチング サッカーのコーチングに関する基礎的な知識について学習する。
3		コーチングの実際 実際のサッカー指導に関して実践的に学習する。
4		トレーニング計画の立案 トレーニング計画の作成法について学習する。
5		指導実践1 テーマ：突破（攻撃）
6		指導実践2 テーマ：1対1の守備
7		指導実践3 テーマ：ボールポゼッション
8		指導実践4 テーマ：フィニッシュ
9		指導実践5 テーマ：クロス（攻撃）
10		指導実践6 テーマ：クロス（守備）
11		指導実践7 テーマ：セットプレー（攻撃）
12		指導実践8 テーマ：セットプレー（守備）
13		指導実践9 テーマ：GKへのコーチング
14		試験
15		試験の振り返り、解説、総括等

授業名	球技（テニス）
Course	
単位数	1単位
担当教員名	◎徐 広孝
授業形態	実技
授業の概要	テニスはネット型の球技としての典型教材であり、子どもから高齢者までがその発達段階や体力・運動能力に合わせて行うことのできるスポーツである。本科目では、テニスの歴史やルールを学んだうえで、ストローク、ボレー、サービスの技術の習得を軸とし、発展的なプレー（バッシングショット、ネットプレー、サービスアンドボレーなど）の理解と習得を試みる。また、練習の方法、シングルスやダブルスのゲームの行い方などを学習すると同時に、それらの指導法を身に付ける。 近年、ヨーロッパを中心に普及している「タッチテニス」は、学校体育のネット型球技における導入教材に最適であることから、タッチテニスについても学習、及びその技能の習得を目指す。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ テニスのルール（シングルス・ダブルスにおけるサービスサイドとレシーバー、スコアリングシステム、イン・アウト・フォルト・レットの判定など）を理解する。</li> <li>・ 基本的な技能を習得する（グラウンドストロークでラリーを20回継続、ボレーでラリーを10回継続、サービスが70%の確率で入る）。</li> <li>・ 試合において発展的なプレー（バッシングショット、ネットプレー、サービスアンドボレーなど）を成功させることができる。</li> <li>・ 基本的な球出しができるようになる。</li> <li>・ 審判法、大会運営のやり方を身に付ける。</li> </ul>
提出課題等	なし
成績の評価方法・基準	実技テスト（60%）、筆記テスト（30%）、授業への取り組み状況（10%）に基づき、成績評価を行う。
テキスト	なし
参考書	指導者のためのテニスの科学と応用 澁谷隆良著（ブックハウスHD）
履修条件	なし
事前学習	参考書を事前に熟読し、次回の授業で行う技術に関する科学的な知識を持ったうえで授業に参加すること。
事後学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業で学んだテニスのルールや科学的根拠をよく整理、理解すること。</li> <li>・ 授業で練習した技術を、自主的に練習してその技能の向上に努めること。</li> </ul>
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 履修制限32名。</li> <li>・ ラケットは大学で貸し出しを行っているが、テニスは同じラケットでもガットの緩みなどでボールの反発が大きく異なる。自分のラケットを持つことが望ましい。</li> <li>・ テニスシューズの貸し出しは行わない。どのコートでも使える「オールコート用」またはオムニコート専用の「オムニコート用（オムニ・クレールコート用）」を用意すること。また、体育館で行うタッチテニスの際は、体育館用シューズを用意すること。</li> <li>・ 正当な理由のない欠席、遅刻、早退をしないよう努めること。</li> <li>・ 授業に集中し、自身の知識や技能の向上に努めること。</li> </ul>
シラバス自由項目1	自分のフォームをビデオカメラやスマートフォンで撮影するなどして、積極的に活用することを試みる。
知識・理解【基礎理論】	20
思考・判断・表現【課題】	10
関心・意欲・態度【当】	10
技能【情報リテラシー】	60

授業計画（テーマ、スケジュール）

No	担当教員	授業内容
1		授業の概要説明 テニスの歴史と競技特性 まずはボールを打ってみる
2		グラウンドストローク①（手投げの球出し）
3		グラウンドストローク②（ラケットでの球出し） ラケットとボールの反発を物理的に考える
4		サービス①（スピンのかけ方） 半面でのゲーム形式
5		サービス②（コースを打ち分ける） サービスリターン 半面でのゲーム形式
6		ボレー（球出し） ボレーを使ったダブルスのゲーム展開 実技テスト①
7		実践的な練習①（リカバリーからのラリー展開、ネットプレー、バッシングショット） 試合のルール解説 練習試合①
8		実践的な練習②（サービス&ボレー、オープンコートを作る） 練習試合②
9		タッチテニス① テニスとタッチテニスの違い
10		タッチテニス② 実践的な練習とゲーム
11		指導方法の習得（手投げの球出し、ラケットでの球出し） 実技テスト②
12		指導方法の習得②（見本の見せ方、テニスのフィジカルトレーニング）
13		大会運営法①（ドローの組み方）
14		大会運営法②（大会運営の実際）
15		定期試験

授業名	体育原理
Course	Principles of Physical Education and Sport
単位数	2単位
担当教員名	◎和所 泰史
授業形態	講義
授業の概要	本授業では、体育・スポーツ科学系学部の専門である体育を正しく理解するために、体育それ自体を改めて自覚的に掘り下げ、その本質や基盤、そして教育としての可能性等、あるいはそれに関連する諸知識について理解を深めると共に、体育・スポーツ科学の専門家あるいは体育・スポーツ関連職志望学生としての基本的な考え方を養成する。
授業の到達目標	スポーツを学ぶ学生たちの専門である体育を正しく理解するために、体育それ自体を改めて自覚的に掘り下げ、その本質や基盤、そして教育としての可能性等、あるいはそれに関連する諸知識について知り、体育の専門家あるいは体育・スポーツ関連職志望学生としての基本的な考え方を養成する。認知的領域については、体育のありかたを、自分の力で考えることができることを目標とする。情意的領域については、よい体育を追求しようとする意識をもつことができることを目標とする。技能的領域については、体育について論理的に思考することができることを目標とする。
提出課題等	講義後に課題レポートを課す。
成績の評価方法・基準	試験（60％）、課題レポート（40％）とする。
テキスト	和所泰史（2025）大学生のための体育原理、ビジネス実用社
参考書	友添秀則、岡出美則 編（2016）教養としての体育原理、大修館書店
履修条件	なし
事前学習	次回の授業で取り上げる問題について思考し、客観性を持った回答を用意する（2時間程度の予習）。
事後学習	授業における討議において積極的に発言しながら協同的に思考し、体育・スポーツの本質に関わる自己内対話を行う（2時間程度の復習）。
履修上の留意点	特に指定しない
シラバス自由項目1	適宜使用する
知識・理解【基礎理論】	70
思考・判断・表現【課題】	10
関心・意欲・態度【当該】	10
技能【情報リテラシー】	10

授業計画（テーマ、スケジュール）

No	担当教員	授業内容
1		講義「体育原理」についてのオリエンテーション
2		体育への問い：教わる立場から教える立場へ
3		体育とは何か①：前提としての歴史認識－未来の体育教師へ
4		体育とは何か②：体育の名辭とその概念
5		体育と体育教師：体育教師の負の遺産とそこからの脱却
6		専門職としての体育教師：体育教師の代替不能な職能
7		体育教師の学問的基盤：専門科学としての体育学
8		体育教師の哲学的基盤：体育哲学と体育の原理
9		体育の対象としての人間：体育学的人間理解
10		体育教材としての身体運動文化：スポーツとその文化運動
11		体育の目的論
12		体育の存在意義
13		体育と人文主義
14		講義のまとめ
15		定期試験

授業名	スポーツ心理学
Course	Sports Psychology
単位数	2単位
担当教員名	◎木村 駿介
授業形態	講義
授業の概要	立つ、座る、歩くといった日常的な身体運動は当然のことながら、運動やスポーツはさまざまな文脈の中で取り組まれており、その活動目的は、教育、競技、レクリエーション、健康・医療と多岐にわたる。多種多様な活動の中で起こる現象に対して、基礎と応用からの科学的説明を目指すのがスポーツ心理学である。スポーツ心理学は、体育・スポーツの実践や指導に寄与するだけでなく、身体運動を手がかりに新たな人間理解を促す可能性を秘めている。本講義の達成目標は、スポーツ心理学領域における応用分野を中心に基礎的な知識を身に付け、体育・スポーツ現場での指導に生かす能力を身に付けることである。
授業の到達目標	授業では、「自ら考える力（学習力・思考力・探求力）」「智能を磨く力（体育・スポーツ科学に関する智能）」及び「思想を培う力（体育・スポーツ科学を踏まえた社会性と国際性を培う力）」を育成する。また、学修の到達目標は、以下の通りである。体育、スポーツ、運動関連事象におけるスポーツ心理学的捉え方を学び、説明できる。体育、スポーツ、運動指導場面における効果的な指導に対して、スポーツ心理学的観点からの助言ができる。
提出課題等	複数回試験を実施するため、試験に向けた学習を行うこと。
成績の評価方法・基準	授業内で複数回する試験の結果から評価を行う。
テキスト	これからの体育・スポーツ心理学 國部雅大／雨宮怜／江田香織／中須賢巧・編（講談社）
参考書	スポーツ・運動・パフォーマンスのための心理学 高見和至編（化学同人） ポジティブマインドースポーツと健康、積極的な生き方の心理学（新曜社）
履修条件	なし
事前学習	自らや周囲の人の心に意識を向け、日常の中で生じる疑問やスポーツ心理学を学ぶ目的を意識すること。各回の授業内容について予習を行うこと。テキストを予習すること。（2時間）
事後学習	授業の内容を整理し、次回授業までに理解しておくこと。講義で扱わなかったテキストの内容についても学習を行うこと。（2時間）
履修上の留意点	他の履修者に迷惑となる行為を行わないこと。 各回の授業後に質問を募集するので、積極的な疑問の解消を目指すこと。
シラバス自由項目1	必要に応じてスマートフォンやPCの利用を指示する。
知識・理解【基礎理論】	30
思考・判断・表現【課題】	30
関心・意欲・態度【当】	30
技能【情報リテラシー】	10

**授業計画（テーマ、スケジュール）**

No	担当教員	授業内容
1		はじめに（講義を始めるにあたって） スポーツ心理学講義全般の流れの説明を受け、本講義を学ぶ意義について学習する 事前学習：シラバスを読み、授業内容をイメージする
2		スポーツ心理学の概論と歴史 スポーツ心理学の概論と歴史について理解する 小レポート。 事後学習：講義の内容を振り返る。次回の授業に向けて、テキストや関連資料等を読む
3		スポーツと動機づけ 動機づけの種類や達成目標との関係について学習する 小レポート 事後学習：講義の内容を振り返る。次回の授業に向けて、テキストや関連資料等を読む
4		スポーツと指導者 指導者の姿について、理念や暴力行為、意欲低下などから学習する 小レポート 事後学習：講義の内容を振り返る。次回の授業に向けて、テキストや関連資料等を読む
5		子どものスポーツ 子どものスポーツを通じた心理的発達とそれに対する大人の影響および対応を学ぶ 小レポート 事後学習：講義の内容を振り返る。次回の授業に向けて、テキストや関連資料等を読む
6		スポーツへの参加と離脱 スポーツへの参加と離脱について背景因を学ぶ 小レポート 事後学習：講義の内容を振り返る。次回の授業に向けて、テキストや関連資料等を読む。
7		運動とメンタルヘルス 運動による精神的健康について学ぶ。 小レポート 事後学習：講義の内容を振り返る。次回の授業に向けて、テキストや関連資料等を読む
8		スポーツとパーソナリティ1 スポーツによるパーソナリティ形成の研究知見を学ぶ 小レポート 事後学習：講義の内容を振り返る。次回の授業に向けて、テキストや関連資料等を読む
9		スポーツとパーソナリティ2 パーソナリティ形成における体験の質の重要性について学習する 小レポート 事後学習：講義の内容を振り返る。次回の授業に向けて、テキストや関連資料等を読む
10		競技心理 競技環境特有の現象とアスリートの心理的特徴について学ぶ 小レポート 事後学習：講義の内容を振り返る。次回の授業に向けて、テキストや関連資料等を読む
11		心理サポート 心理サポートの全般的動向について学ぶ 小レポート 事後学習：講義の内容を振り返る。次回の授業に向けて、テキストや関連資料等を読む
12		スポーツメンタルトレーニング スポーツメンタルトレーニングについて基礎知識を学ぶ 事後学習：講義の内容を振り返る。次回の授業に向けて、テキストや関連資料等を読む
13		スポーツカウンセリング スポーツカウンセリングについて基礎知識を学ぶ 小レポート 事後学習：講義の内容を振り返る。次回の授業に向けて、テキストや関連資料等を読む
14		まとめ これまでの復習を通じて、自身の理解を確認する 事後学習：講義の内容を振り返る。全体を復習し、試験に臨む
15		定期試験

授業名	スポーツ経営管理論
Course	Sport Management and Administration
単位数	2単位
担当教員名	◎塩梅 弘之
授業形態	講義
授業の概要	近年は、文化活動、経済活動としてのスポーツの組織をどのように形成し運営していくかが大きな課題となっており、まさに経営学的分析の社会的要請が高まっている。本講義においては、スポーツを事業として展開する組織の活動を、組織構造や環境、施設運営、消費者行動、マーケティング、スポーツ政策、リスクマネジメント、イベントの企画・実施、プロモーション活動といった様々な視点から取り上げ、スポーツ経営に関する知識やスキルの深化を図っていく。さらには、新しいテクノロジー（ICT）とスポーツとの関わりや活用の可能性についても言及する。
授業の到達目標	1. <input checked="" type="checkbox"/> スポーツ経営管理の主要な諸理論を説明できる。 2. <input checked="" type="checkbox"/> スポーツ経営管理の主要な諸理論を、それらが活用されるスポーツ組織の機能や状況ごとに類別することができる。 3. <input checked="" type="checkbox"/> スポーツ組織特有の課題について説明できる。 4. <input checked="" type="checkbox"/> スポーツ組織の状況に応じて、理論をどのように現場で活用するかについて説明できる。
提出課題等	なし。
成績の評価方法・基準	【グループ課題】各授業終盤で理解度を確認するグループ課題を実施する（計40%）。 【期末テスト】第14週に期末テスト（選択・穴埋め問題）を実施する（60%）。
テキスト	なし。
参考書	1. <input checked="" type="checkbox"/> Bye, R., Misener, K., Naraine, M. L., & Ordway, C. (2022). Sport Management: Principles and Applications (6th ed.). Routledge. 2. <input checked="" type="checkbox"/> Ilson, R., Platts, C., & Plumley, D. (Eds.). (2023). Torkildsen's sport and leisure management (7th ed.). Routledge. 3. 園田 宗彦・小笠原 悦子 (2015). スポーツマネジメント 改訂版. 大修館書店. 4. 園田 宗彦・間野 義之 (2011). スポーツファンシリティマネジメント. 大修館書店. 5. 園田 宗彦 (2020). スポーツ地域マネジメント: 持続可能なまちづくりに向けた課題と戦略. 学芸出版社.
履修条件	なし。
事前学習	スポーツ観戦や部活動など身近な経験を通して、プロやアマチュアを問わずスポーツ組織に関する疑問を探す。学習管理システムを通して質問をすれば、匿名にて、授業で取り上げ、皆と話し合う機会を設ける（2時間）。
事後学習	授業で学習した内容を復習し、疑問点を明らかにする。疑問点について、グループで相互に教え合いながら、解決するようにする。第3回目以降の各授業冒頭にて、前回の授業の理解度をテストする（5時間）。
履修上の留意点	1. <input checked="" type="checkbox"/> 授業では、学習管理システム（mocaならびにGoogle Classroom）を使用するため、事前に自身のアカウントにアクセスできるようにしておく。 2. <input checked="" type="checkbox"/> 期末テストは、授業で使用したスライドと配布資料の範囲で出題する。 3. <input checked="" type="checkbox"/> 授業内で理解できなかったところは、スライド、配布資料、ならびに推薦図書を参考に自主的に学習するように努める。理解を促し、知識の定着を図るために、グループ学習をすることを勧める。 4. <input checked="" type="checkbox"/> 自身やグループで解決できない疑問点については、学習管理システムを通して質問することができる。匿名にして、授業内で質問を取り上げ解説する。 5. <input checked="" type="checkbox"/> ループワークを行うため、他のメンバーと協力し責任を持って課題に取り組む。 6. <input checked="" type="checkbox"/> PowerPointデータは、担当教員が授業後に学習管理システムからダウンロードできるようにしておく。
シラバス自由項目1	講義内で扱ったPowerPointデータは、担当教員が授業後に学習管理システムからダウンロードできるようにしておく。 グループワークで必要なため、ノートパソコンを持参する。
知識・理解【基礎理論】	30
思考・判断・表現【課題】	20
関心・意欲・態度【当】	30
技能【情報リテラシー】	20

授業計画（テーマ、スケジュール）

No	担当教員	授業内容
1		オリエンテーション 授業の進め方、成績評価の方法などを説明。
2		スポーツ施設・経営 スポーツ経営やスポーツマネジメントの概念、スポーツ施設を運営する上でのポイントを学修する。
3		スポーツ組織を考える スポーツ組織とは何か、その具体的な仕事について学修する。
4		スポーツ組織を取り巻く環境 スポーツ組織を取り巻く環境について学修する。
5		顧客を考える スポーツ市場における顧客（スポーツ消費者）について学修する。
6		スポーツ事業 問題の組織化～計画～運営～評価のプロセスについて学修する。
7		スポーツマーケティング マーケティングにおける基本的理論を学修する。特にプロモーションに焦点を当てる。
8		スポーツ施設の運営 スポーツ施設を効果・効率的に運営する際のポイントについて学修する。
9		スポーツ事故の発生機序と予防 事故予防のマネジメントと指導者の法的責任について学修する。
10		スポーツにおける人権問題のマネジメント 基本的人権、暴力、虐待、セクハラの実態と予防について学修する。
11		民間スポーツクラブの経営 フィットネスクラブの経営戦略とマネジメント課題について学修する。
12		プロスポーツ経営を考える プロ野球とJリーグの経営状況や課題を含むプロスポーツチームの経営方法について学修する。
13		これからのスポーツ経営のあり方について ここまで学習した内容を参考にディスカッションを行う。
14		総括と質疑応答
15		定期試験

授業名	スポーツ社会学
Course	Sports Sociology
単位数	2単位
担当教員名	◎大島 建
授業形態	講義
授業の概要	スポーツ社会学は、スポーツで起こっている社会現象や問題を社会学の視点から理解し、解決する学問である。また、社会現象や問題をスポーツを通して理解する学問でもある。本講義では、現代社会におけるスポーツの役割や機能、社会的な価値、スポーツ独自の問題点を取り上げ、スポーツを専門に学ぶ学生の基礎的な知識の習得を目指す。また、スポーツ社会学で習得した知識をスポーツ経営学やスポーツビジネスなどの分野に応用できる能力の涵養も目指す。
授業の到達目標	1. スポーツ社会学における基本的な理論や概念を理解し、説明することができる。 2. スポーツがいかに社会の関係との中で構成されているかを理解し、説明することができる。 3. スポーツ社会学で学習したことを、他のスポーツ科学専門科目への学習につなげていくことができる。
提出課題等	授業毎に小レポートを提出してもらう。
成績の評価方法・基準	成績は以下の2つで評価する。レポートやエッセイで他人の文章を盗用したと判断された場合には単位を認めない。 授業毎の小レポート（40%）、定期試験（60%）
テキスト	特になし
参考書	・『スポーツ社会学講義』森川貞夫・佐伯年詩雄 編、1988（大修館） ・『スポーツの社会学』池田勝・守能信次 編、1998（杏林書院） ・『現代スポーツの社会学：課題と共生への道のり』コークリー・ドネリー：前田和司ほか訳、2011（南窓社） ・『現代社会とスポーツの社会学』高峰修・岡本純也・千葉直樹・東原文郎・横田匡俊 編、2022（杏林書院）
履修条件	特になし
事前学習	新聞、雑誌、インターネットなどを活用して現代スポーツのトピックスを日常的に収集し、問題意識の向上に努めること。
事後学習	授業に関連するニュースや新聞に対して、自身の主張を考えるようにすること。
履修上の留意点	・授業毎に小レポートがあるため、授業内容に対する自身の主張を考えながら受講すること。 ・授業内容は、進捗状況やトレンドの変化により若干の変更もあり得る。
シラバス自由項目1	学生持参のスマートフォンやパソコンにより、授業時に資料調査を行うことがある。
知識・理解【基礎理論】	40
思考・判断・表現【課題】	20
関心・意欲・態度【当該】	30
技能【情報リテラシー】	10

**授業計画（テーマ、スケジュール）**

No	担当教員	授業内容
1		オリエンテーション (授業の概要、講義のルール、成績評価についての説明等)
2		スポーツ社会学のすすめ (スポーツ社会学の必要性、スポーツの社会学的理解、スポーツ文化のシステム)
3		スポーツ社会学の課題 (スポーツ参与とスポーツの社会)
4		スポーツ社会学の課題 (アマチュアリズム、オリンピックと政治、オリンピックと経済)
5		スポーツ社会学の課題 (スポーツとフェアプレー)
6		スポーツ社会学の課題 (スポーツとアンチ・ドーピング)
7		スポーツ社会学の課題 (子どもとスポーツ、女性とスポーツ)
8		スポーツ社会学の課題 (高齢者とスポーツ、障害者とスポーツ)
9		スポーツ社会学の課題 (スポーツとメディア)
10		スポーツ社会学の課題 (スポーツと暴力)
11		スポーツ社会学の課題 (スポーツと権利、ガバナンスとコンプライアンス)
12		スポーツ社会学の課題 (スポーツ事故と法的責任)
13		スポーツ社会学の課題 (地域とスポーツ、企業とスポーツ)
14		まとめ
15		定期試験

授業名	スポーツ文化史
Course	History
単位数	2単位
担当教員名	◎和所 泰史
授業形態	講義
授業の概要	日本のスポーツ文化は明治に始まると考える人が多いが、日本人は「スポーツ」という言葉こそ使わないものの、様々な種目の競技と遊びを古くからおこなっていた。それらは、日本人の発案になるものもあったであろうが、多くは様々な時期に大陸や島嶼部から伝来したもので、日本人は長い時の経過の中でこれらに特異な文化的工夫を施して日本化してしまう。今日、我々が日本独自と認識するものも、実はこうした新解釈の日本の変容であるものが多い。本講義では、史料と遺物と民俗誌・民族誌を総合して、主に日本人のスポーツ文化の歴史について考える。
授業の到達目標	①日本にスポーツをもたらした多様な文化波について理解できるようになる。②日本人のスポーツ文化と国際オリンピック委員会（I O C）が展開する国際スポーツ文化の違いを理解できるようになる。
提出課題等	なし。
成績の評価方法・基準	授業内での課題30%、定期試験70%の結果に基づき、成績評価を行う。
テキスト	なし
参考書	『体育・スポーツ史概論』木村吉次（編著）、市村出版、2015。
履修条件	なし
事前学習	授業の最後に次回の内容を伝える。1時間程度参考書等を読み込んでおくこと。
事後学習	授業内容を1時間程度整理し、次週の授業に備えること。
履修上の留意点	なし
シラバス自由項目1	なし
知識・理解【基礎理論】	60
思考・判断・表現【課題】	20
関心・意欲・態度【当該】	20
技能【情報リテラシー】	0

授業計画（テーマ、スケジュール）

No	担当教員	授業内容
1		本講義の概要説明
2		日本人アイデンティティ論
3		魏志倭人伝の世界
4		古墳時代のスポーツ
5		古代のスポーツ（1）貴族のスポーツ
6		古代のスポーツ（2）官人武士のスポーツ
7		古代のスポーツ（3）庶民のスポーツ
8		中世のスポーツ
9		近世のスポーツ（1）武術伝書に見る心法武術の世界
10		近世のスポーツ（2）庶民のスポーツ
11		学校体育という近代の身体文化
12		嘉納治五郎の柔道と近代武道
13		洋式スポーツの受容と変容（1）軍隊
14		洋式スポーツの受容と変容（2）学校、青年団
15		定期試験

授業名	運動方法学
Course	Exercise Methodology
単位数	2単位
担当教員名	◎館 俊樹
授業形態	講義
授業の概要	身体運動の発現のしくみと、発現された身体運動がどのような特性を持って外に現れるのかを、身体の機能的生理特性と物理法則を通して理解するものである。また、学校における保健体育やスポーツの指導においては、「身体運動の指導を通じた教育」も重要であり、運動指導における教育的位置づけを考える必要もある。本講義では、スポーツや生活動作において、身体の各部位がどのように機能し、力を発揮しているかを学習していく。
授業の到達目標	①身体運動が発現する機能と力学的しくみを学ぶ。 ②物理法則を理解し効率的な身体コントロールの考え方を学ぶ。 ③運動指導への応用を考える。 の3つを目的とする。
提出課題等	なし
成績の評価方法・基準	毎回の講義中・講義後のレポート（40%）、最終レポート（60%）
テキスト	教員が資料を適宜配付する
参考書	ストレングストレーニング&コンディショニング 第4版：NSCAジャパン
履修条件	なし
事前学習	講義の最後に次回の資料を提示し閲覧を求めます（90分）
事後学習	講義毎にレポートが課されます（90分）
履修上の留意点	なし
シラバス自由項目1	スマートフォン、もしくはタブレット、ノートPC等を講義中に使用します
知識・理解【基礎理論】	40
思考・判断・表現【課題】	20
関心・意欲・態度【当】	20
技能【情報リテラシー】	20

**授業計画（テーマ、スケジュール）**

No	担当教員	授業内容
1		オリエンテーション ・運動方法学の活用事例の紹介 ・スポーツ動作の運動方法学的解説
2		関節の運動と生活動作 ・様々な生活動作と関節の動きについて
3		関節の運動とスポーツ動作 ・スポーツによくみられる動作と関節の動きについて
4		走運動の理論 ・加齢、性別、競技による走運動の変化
5		走動作の分析 ・競技力、スピードによる違いと関節の動きを客観的に分析
6		歩行の理論 ・加齢、性別による変化
7		歩行動作の分析 ・路面、速度による変化 ・歩行の経済効率について
8		跳躍運動の理論 ・競技による跳躍の違い ・加齢、性別による動作の違い
9		跳躍運動の分析 ・関節運動、速度の違いを検証
10		キック動作の理論 ・時代による変化 ・運動学的特性
11		投運動の理論 ・ボールの質量、表面積による変化 ・関節動作の変化
12		投運動の分析 ・フェーズにわけた関節の動き ・投球動作、バレーボールスパイク、テニスサーブの観察と評価
13		衝撃緩衝の理論 ・着地、歩行、走りの衝撃緩衝
14		プレゼンテーションの作成 ・関節の動き、時間、力を軸にスポーツ動作の違いを表現する
15		

授業名	運動生理学
Course	Exercise Physiology
単位数	2単位
担当教員名	◎江間 諒一
授業形態	講義
授業の概要	運動生理学は、身体運動によって身体の諸機能がどのような応答や適応を示すのか、そしてそれら応答や適応が生じるメカニズムは何かを明らかにする学問である。運動生理学に関する基本的な知識は、保健体育教員や健康運動実践者等の健康づくりに関わる仕事において必須となるものである。本講義では、身体を構成する各器官に関する基礎的知識を習得し、それらの器官が身体運動によってどのような応答や適応を示すのかを学ぶ。さらには、運動生理学的視点から、健康づくりにおける運動の意義について考える。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動生理学分野で用いられるキーワードを列挙することができる。</li> <li>・授業で取り上げたキーワードについて具体的に説明することができる。</li> <li>・身体運動を生み出す仕組みについて、キーワードを使って説明できる。</li> <li>・身体機能について影響する要因について説明できる。</li> <li>・運動を行う意義について、運動生理学的観点から説明できる。</li> </ul>
提出課題等	授業時に提出するレポート
成績の評価方法・基準	授業時に提出してもらう毎回のレポート(30%)および定期試験(70%)で評価する。学生発表実施者については、その内容の評価を加味する。合計60%以上を合格とする。
テキスト	なし
参考書	授業中に適時紹介する。
履修条件	なし
事前学習	授業の最後に次回の内容を伝えるので、書籍や論文等を利用してキーワードの内容を調べてくること(2時間)。
事後学習	授業の内容を整理し、次回授業までに理解しておくこと。復習および応用・発展学習のためにレポートなどの課題を与える場合もある(2時間)。
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オフィスの曜日・時間帯は初回授業時に説明する。訪問の際は、事前にメールで連絡すること。</li> <li>・レポートの提出や学生間での理解度チェックなど、アウトプット作業があるので、積極的に授業に取り組んでほしい。</li> </ul>
シラバス自由項目1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生持参のスマートフォンにより、授業時に資料調査を行うことがある。</li> <li>・パソコンにより、動画やプレゼンテーション資料を作成することがある。</li> </ul>
知識・理解【基礎理論】	50
思考・判断・表現【課題】	20
関心・意欲・態度【当講義】	20
技能【情報リテラシー】	10

授業計画（テーマ、スケジュール）

No	担当教員	授業内容
1		オリエンテーション、運動生理学概論
2		骨格筋の構造と機能
3		身体運動が生じる仕組み：関節レベル
4		身体運動が生じる仕組み：マイクロレベル
5		骨格筋の収縮様式と身体運動との関連
6		神経系と身体運動
7		第1週～第6週のまとめ、学生間でキーワードの理解度相互チェック
8		ストレッチングの理論と実践
9		身体機能に影響を及ぼす要因：トレーニング
10		身体機能に影響を及ぼす要因：加齢、性別
11		身体を構成する要素と運動による変化
12		運動と健康
13		運動とエネルギー代謝
14		定期試験
15		総括、学生発表

授業名	公衆衛生学
Course	Public Health A
単位数	2単位
担当教員名	◎山崎 秀夫
授業形態	講義
授業の概要	公衆衛生学とはヒト集団の健康を扱う学問であり、ヒト集団の疾病予防と健康増進を目的としている。したがって、この分野には疾病の原因を探ることだけでなく、予防を中心とした実践的な活動も含まれている。また、対象とする集団によって、幾つかの分野(母子保健、学校保健、産業保健、老人保健)が存在する。本講義では、公衆衛生学の様々な分野の中から、人口・保健統計、疫学、環境保健、地域保健、産業保健などを紹介していく。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口と保健統計の意義について説明できる。</li> <li>・疫学の考え方と調査方法について説明できる。</li> <li>・健康と環境との関係と環境保全について説明できる。</li> <li>・地域住民に対する保健活動について説明できる。</li> <li>・学校における保健活動について説明できる。</li> <li>・労働者に対する保健活動について説明できる。</li> </ul>
提出課題等	第1回～第14回授業内で提示する。各回、当該授業の主題に関わる内容となる。
成績の評価方法・基準	<p>試験・レポート・平常点の結果に基づき、総合的に成績評価を行う。総合評価100点満点で60点以上が単位取得基準となる。内訳は次の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験50点：定期試験の評価</li> <li>・レポート40点：知識的理解を踏まえた思考力・判断力・表現力等を評価するための各種レポートを第1回～第14回授業内で実施、各回5点満点、合計70点満点を総合評価40点分に比例換算し配点</li> <li>・平常点10点：第1回～第14回授業で、提出物の状況・内容、グループワークでの活動状況等から授業への取り組み姿勢等を評価、各回2点満点、合計28点満点を総合評価10点分に比例換算し配点</li> </ul>
テキスト	なし
参考書	参考文献を授業中に指示する。
履修条件	健康に関心を持ち、健康水準の向上にはどのような取り組みがあるかについて興味があること。
事前学習	指定する授業資料を理解しておくこと（60分程度）。
事後学習	授業内容を整理し、次回の授業までに理解しておくこと（60分程度）。
履修上の留意点	自分なりの課題や考えを持ちながら、主体的・協働的に学習活動に取り組むこと。
シラバス自由項目1	学生が所有するスマートフォンを使用することがある。
知識・理解【基礎理論】	30
思考・判断・表現【課題】	30
関心・意欲・態度【当該】	30
技能【情報リテラシー】	10

**授業計画（テーマ、スケジュール）**

No	担当教員	授業内容
1		公衆衛生学序論
2		保健統計
3		疫学
4		疾病予防と健康管理
5		主な疾病の予防
6		環境保健
7		地域保健と保健行政
8		母子保健
9		学校保健
10		産業保健
11		高齢者の保健・医療・介護
12		精神保健
13		国際保健医療
14		保健医療福祉の制度と法規
15		まとめ・定期試験

授業名	学校保健
Course	Schoolworks on Physical Wellness
単位数	2単位
担当教員名	◎徐 広孝
授業形態	講義
授業の概要	中高教職科目としての学校保健学の基礎知識を学ぶ授業である。学校における児童、生徒、学生、教職員の健康と安全を守る主たる担い手として身に付けるべき知識として、学校保健とは何か、学校保健の目標とねらい、歴史について学んだ後、学校保健諸活動について具体的事例を取り上げながら授業を進める。また、授業では学校安全、精神保健、小児保健、救急処置についても取り扱う中で、特に子どもの現状と課題について考える授業を展開していく。
授業の到達目標	学校における生徒、教職員の健康安全にとって必要とされる基礎的知識の習得と中学校高等学校の教育現場で起こっている健康課題に着目しながら、その解決のための教育的手法を学ぶことによって、健康の保持増進を図る。さらには学校保健のねらいとして、発育発達という視点から最も効率的な教育環境、学習環境の整備を図ること、健康教育という視点から健康への理解と認識の育成を進めることにより、健康に対する予防を含む教育的効果を図ること。他の人々の生命や健康に関心を持ち、社会の健康に貢献できうるヘルスプロモーションの理念形成を図ることを講義の目標とする。
提出課題等	毎回の授業後にリアクションペーパーを記入し提出する。
成績の評価方法・基準	講義における受講態度、毎回提出するリアクションペーパー、講義内小テスト、到達度評価としてのテストにより評価する。
テキスト	和田雅史編著『現代学校保健学』（共栄出版）
参考書	『新訂版学校保健実務必携』学校保健・安全実務研究会（第一法規）
履修条件	教職を目指さない学生の受講可であるが、教職必修の科目であることを意識して受講すること。
事前学習	講義計画に示された内容を事前に調べ、その情報をまとめ授業に臨むこと。
事後学習	授業で扱った内容について復習し、自身の考えや疑問点を整理し、次の授業までにまとめてくること。
履修上の留意点	講義内容について自身の考えをまとめ、プレゼンテーションすることが要求される。またでディスカッション形式の授業を多用するので、積極的に授業に参加できることが必要である。
シラバス自由項目1	学生が所有するスマートフォン、ノートパソコンを使用して、情報の収集やプレゼンテーションを行う。
知識・理解【基礎理論】	30
思考・判断・表現【課題】	30
関心・意欲・態度【当該】	30
技能【情報リテラシー】	10

授業計画（テーマ、スケジュール）

No	担当教員	授業内容
1		学校保健の意義とねらい
2		学校保健の歴史と学校保健行政
3		学校保健における保健学習の内容と実践
4		学校保健指導の意義と実際
5		学校における安全教育とその指導
6		学校健康診断と事前事後活動（健康観察を含む）
7		精神保健と健康心理（ストレスマネジメントを含む）
8		学校健康相談の実際
9		養護教諭の仕事と保健室の機能
10		学校保健組織と委員会活動の実際
11		学校保健における救急処置の理論
12		救急処置の実際（心肺蘇生法を含む）
13		学校保健における小児保健の理論
14		小児保健としての健康課題とその予防
15		振り返りとまとめ(到達度テスト)

授業名	保健体育科教育法Ⅰ
Course	Methodology of Health and Physical Education Ⅰ
単位数	2単位
担当教員名	◎笠井 義明
授業形態	講義
授業の概要	<p>本授業では、保健体育科教育について、教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された保健体育の学習内容について理解を深めると共に、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。その際、生徒の実態を視野に入れることや、情報通信技術の効果的な活用法を理解した授業設計ができるようになる。</p> <p>教科「体育」では、「体づくり運動・器械運動・陸上競技・水泳・球技・武道・ダンス・体育理論」の学習内容と指導上の留意点を理解すると共に、よい授業と評価される映像視聴を通し、その要因や学習指導案の構成についてグループワークを通して学習する。</p> <p>教科「保健」では、「健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境」の学習内容と指導上の留意点を理解すると共に、授業作りのための基本的概念である教材研究の進め方やこれまで優れた授業実践と評価された授業のいくつかを取り上げ、その方法と技術について学習していく。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校保健体育・高等学校保健体育の目標と内容等を理解している。</li> <li>・生徒の資質・能力及び身体能力の育成を促す「楽しい保健体育」を目指した授業設計を理解している。</li> <li>・保健体育で取り扱うICT機器をはじめとした情報通信技術の効果的な活用法を理解している。</li> <li>・小学校・中学校・高等学校の学びの系統性を踏まえ、授業設計に活用することができる。</li> </ul>
提出課題等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 授業のまとめ（授業内容・学んだこと・質問等）を毎時間行い提出する。</li> <li>2) 最終レポートとして、典型教材（体育分野・保健分野から選択）での学習指導案（一時間分）を作成し、提出する。</li> </ol>
成績の評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内プレゼンテーション(20%)</li> <li>・授業内活動への参加状況(50%)</li> <li>・最終レポート(30%)</li> </ul>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校学習指導要領解説（保健体育）（平成29年7月 文部科学省）</li> <li>・高等学校学習指導要領解説（保健体育編・体育編）（平成30年7月 文部科学省）</li> </ul>
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校学習指導要領（平成29年3月 文部科学省）</li> <li>・高等学校学習指導要領（平成30年3月 文部科学省）</li> </ul>
履修条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 全出席が単位認定の条件。</li> <li>2) 欠席・遅刻は原則認めない。</li> </ol>
事前学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 授業の最後に次時の内容を伝えるので、事前学習を行うこと</li> <li>2) 授業内で発表や模擬授業を行う機会があるので、事前に準備あるいはグループの場合は互いの意見交換や作業を行っておくこと</li> <li>3) 最終レポートを作成する上で必要な知識、情報を収集しておくこと</li> </ol>
事後学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 授業の内容を整理し、次回授業までに完全に理解しておくこと</li> <li>2) 復習のための課題を与えることもあるため、既習内容をノートに記述し、振り返ること</li> </ol>
履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 教員を志す高い意欲を有する学生を望む</li> <li>2) 教員を志す者にふさわしいマナー（時間厳守、私語、活動しやすい服装等）を守り、授業に臨む</li> <li>3) グループ学習を行うので、学生同士でよく相談、打ち合わせを行う</li> <li>4) 中学、高校で教壇に立つ自分の姿をイメージする</li> </ol>
シラバス自由項目1	授業内で使用する情報機器操作に慣れておく
知識・理解【基礎理論】	30
思考・判断・表現【課題】	30
関心・意欲・態度【当】	20
技能【情報リテラシー】	20

**授業計画（テーマ、スケジュール）**

No	担当教員	授業内容
1		オリエンテーション①保健体育のこれまでとこれから②21世紀における保健体育の存在意義と保健体育教師の在り方
2		保健体育科の目標と内容（生涯スポーツの基礎として学校体育）
3		主体的・対話的で深い体育授業の在り方（ICTの活用含む）学習と指導と評価の一体化
4		領域別指導法① よい授業の映像視聴 体づくり運動・ダンスの模擬授業と省察☑
5		領域別指導法② よい授業の映像視聴 器械運動・陸上競技・水泳の模擬授業と省察
6		領域別指導法③ よい授業の映像視聴 球技・武道の模擬授業と省察
7		領域別指導法④ 体育理論の模擬授業と省察 発展的学習内容の探求と実践研究の動向を踏まえた授業設計・最終レポートの提出
8		オリエンテーション 保健科教育の目的と意義
9		保健科教育の歴史と実践課題
10		学習指導要領に見る保健科教育内容の系統性とカリキュラムマネジメントの考え方（学習指導案作成のための考え方）
11		保健科教育の目標論と教育内容の構成原理
12		保健科教育における学力論
13		諸外国と日本の保健科教育の比較
14		保健科教育に求められる教師像－優れた研究と実践に学ぶ☑
15		総括

授業名	保健体育科教育法Ⅱ
Course	Methodology of Health and Physical Education Ⅱ
単位数	2単位
担当教員名	◎笠井 義明
授業形態	講義
授業の概要	<p>本授業では、保健体育科教育について、学習指導要領改訂（2017年・2018年）の経緯や基本方針・ポイント、「3つの資質能力（知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等）」、並びに、個別の学習内容と評価、指導上の留意点について理解を深める。さらに、情報通信技術を積極的に活用して各分野の特質に応じた授業設計と学習指導案を作成することができるようにする。</p> <p>教科「体育」では、7つの運動領域の各特性や魅力を理解すると共に、「個に応じた指導の充実」「障害のある生徒への配慮」に基づく、指導の実践について、グループワークを通して検討する。また、小学校・中学校・高等学校の学びの系統性を踏まえた授業設計を理解することができるようにする。</p> <p>教科「保健」では、学習指導要領及び学習指導要領解説、さらには中学・高校で使用されている教科書教材を検討する中で、授業で扱う基本的内容の理解をすすめながら授業作りへの準備を行う。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校保健体育・高等学校保健体育科目の目標と主な内容等を理解している。</li> <li>・生徒の資質・能力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。</li> <li>・保健体育で取り扱うICT機器をはじめとした情報通信技術の効果的な活用法を理解するとともに、小学校・中学校・高等学校の学びの系統性を踏まえ、授業設計に活用することができる。</li> <li>・学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計ができる。☑</li> </ul>
提出課題等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 授業のまとめ（授業内容・学んだこと・質問等）を毎時間行い提出する。</li> <li>2) 最終レポートとして、典型教材（体育分野・保健分野から1つ選択）での単元計画・学習指導案を作成し、提出する。</li> </ol>
成績の評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内プレゼンテーション(20%)</li> <li>・授業内活動への参加状況(50%)</li> <li>・最終レポート(30%)</li> </ul>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校学習指導要領解説（保健体育）（平成29年7月 文部科学省）</li> <li>・高等学校学習指導要領解説（保健体育編・体育編）（平成30年7月 文部科学省）</li> </ul>
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校学習指導要領（平成29年3月 文部科学省）</li> <li>・高等学校学習指導要領（平成30年3月 文部科学省）</li> <li>・中学・高校保健体育教科書(2018)（大修館書店）</li> </ul>
履修条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 全出席が単位認定の条件。</li> <li>2) 欠席・遅刻は原則、認めない。</li> <li>3) 保健体育科教育法Ⅰの単位修得者。</li> </ol>
事前学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 授業の最後に次時の内容を伝えるので、事前学習を行うこと</li> <li>2) 授業内で発表や模擬授業を行う機会があるので、事前に準備あるいはグループの場合は互いの意見交換や作業を行っておくこと</li> <li>3) 最終レポートを作成する上で必要な知識、情報を収集しておくこと</li> </ol>
事後学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 授業の内容を整理し、次回授業までに完全に理解しておくこと</li> <li>2) 復習のための課題を与えることもあるため、既習内容をノートに記述し、振り返ること</li> </ol>
履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 教員を志す高い意欲を有する学生を望む</li> <li>2) 教員を志す者にふさわしいマナー（時間厳守、私語、活動しやすい服装等）を守り、授業に臨む</li> <li>3) グループ学習を行うので、学生同士でよく相談、打ち合わせを行う</li> <li>4) 中学、高校で教壇に立つ自分の姿をイメージする</li> </ol>
シラバス自由項目Ⅰ	授業内で使用する情報機器操作に慣れておく
知識・理解【基礎理論】	30
思考・判断・表現【課題】	30
関心・意欲・態度【当】	20
技能【情報リテラシー】	20

授業計画（テーマ、スケジュール）

No	担当教員	授業内容
1		オリエンテーション（保健体育のこれまでとこれから） 中学校／高等学校保健体育科の目標 （新学習指導要領の目標についての理解）
2		保健体育のスコープとシークエンス （新学習指導要領の内容についての理解）
3		保健体育教師の専門性
4		運動の特性に着目した授業づくりの方法 体育科における評価の在り方、指導案の作成方法
5		課題解決的な学習を活用した体育授業の在り方 （ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの方法①）
6		協同的な学習を活用した体育授業の在り方（学習指導案作成含む） （主体的・対話的で深い学びの方法②）
7		戦術学習を活用した体育授業の在り方（模擬授業実施を通じた授業改善） （主体的・対話的で深い学びの方法③） 発展的学習内容の探求と実践研究の動向を踏まえた授業設計・最終レポート提出
8		優れた保健授業の創造のために
9		保健科授業における学習指導案作成のための教材づくりと教具の活用方法
10		保健科授業における学習指導案作成のための授業づくりの方法と理論
11		保健科授業における模擬授業を想定した教科書教材の研究と資料づくりの方法およびその評価
12		学習指導要領とその解説の活用
13		保健科授業における模擬授業を想定した課題解決型の学習を活用した授業づくりとその評価（主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業づくり）
14		保健科教育における評価の理論
15		総括

授業名	保健体育科教育法Ⅲ
Course	Methodology of Health and Physical EducationⅢ
単位数	2単位
担当教員名	◎徐 広孝
授業形態	講義
授業の概要	本授業では架構科目の位置づけとして、学習指導要領に示され保健科教育並びに体育科教育で扱われる学習素材をどのようにして教材化するかの具体的な方法を学習を展開する。「体育」では、「体づくり運動・器械運動・陸上運動・水泳・球技・武道・ダンス・体育理論(体育に関する知識)」などの教材化、「保健」では、中学校においては「心身の機能の発達と心の健康」「健康と環境」「傷害の防止、健康な生活と疾病」、高校においては「現代社会と健康」「生涯を通じた健康」「社会生活と健康」などの教材化について学習させる。学習指導要領の基礎や実際の授業で活用する教員やICTの活用についても学習し、学習指導案作成やマイクロティーチングなどをグループワークを通して教材作成・授業設計・授業遂行の能力を高める。
授業の到達目標	体育授業を実際に行うことのできる技術の基礎を学び、学外での観察授業で授業を評価できる力を身に付ける。そのために保健体育科教育法Ⅰ・Ⅱでの学習を基礎にして、体育授業の作り方と保健授業の作り方を学習し、自身も授業を展開できる力を養う。学習指導要領および教科書に従って各自が単元計画、単元時間計画を作成し、それに基づいて模擬授業を展開し、討論、評価を行い、授業遂行能力を身に付ける。
提出課題等	・教員を作成する。 ・授業のまとめを所定の書式に従って作成し毎時間行い提出する。 ・最終レポートとして典型教材での単元計画・学習指導案を作成し、提出する。
成績の評価方法・基準	・毎回の授業後に提出された授業レポート、制作物、最終レポート等を総合して評価を行う。
テキスト	指定しない ☑
参考書	・中学校学習指導要領(平成29年3月 文部科学省) ・高等学校学習指導要領(平成30年3月 文部科学省) ・中学校学習指導要領解説(保健体育)(平成29年7月 文部科学省) ・高等学校学習指導要領解説(保健体育編・体育編)(平成30年7月 文部科学省) ・中学・高校保健体育教科書(大修館書店) ・体育授業を観察評価する(明和出版)高橋健夫編 ・ステップアップ高校スポーツ(大修館書店) ・体育の授業を創る(大修館書店)高橋健夫編 ・保健の授業づくり入門(大修館書店)森田三 和康正勝編 ・授業が盛り上がる体育の教材・教員ベスト90(大修館書店)小澤治夫編著
履修条件	保健体育科教育法Ⅰ・Ⅱの単位修得者
事前学習	体育、保健における教材、教員、学習指導案等を作るためのネタ収集に取り組むこと。
事後学習	授業内容をよく復習するとともに、マイクロティーチング等の振り返り・評価を行うこと。
履修上の留意点	教員作成や模擬授業など実践的活動も実施するので自主学習にも力を入れること。
シラバス自由項目1	デジタル教材の作成等を行う。
知識・理解【基礎理論】	60
思考・判断・表現【課題】	10
関心・意欲・態度【当】	20
技能【情報リテラシー】	10

授業計画(テーマ、スケジュール)		
No	担当教員	授業内容
1		オリエンテーション:授業計画と内容の概説 ・体育教材は私たちの体の何をどう変えるのか(体育教材の意義) ・学習材を加工する(動き+音楽+人数+用具など)
2		よい体育授業の作り方 ・よい体育授業の条件とは ・意味のある事(よい教材)を熱意をもって(コミュニケーションスキル)上手に(教員などの活用)教える
3		教材と教材性 ・教材を料理する ・教材性とは ・上位教材と下位教材 ・学習指導要領で扱われる体育教材とその特長について
4		教員(学習支援装置)とは ・教員の事例 ・教員作成課題 ・教員の機能 ・教員を用いた体育授業 ・教員を用いた保健授業
5		体育模擬授業計画 ・作成教員の発表 ・単元計画作成 ・模擬授業(球技・陸上競技)のための学習指導案づくり ・学習指導案のグループ討議 ・作成学習指導案の発表
6		体育教材の学問的意義・考え方とその実践 ・体育授業(球技:サッカー、バレーボール 陸上競技:ハードル走)の教材化 ・体育模擬授業(マイクロティーチング) ・模擬授業の振り返り
7		体育模擬授業の反省と評価 ・形成的授業評価 ・教師行動の評価(Quality Control Sheet for Teaching:QCシートの活用)
8		保健授業の作り方とそのプロセス ・発問の仕方 ・教員を活用した保健授業づくり ・典型教材を用いた保健授業の実際 ・ICTを用いた保健授業の基礎
9		「健康な生活と疾病の予防」の教材化 ・生活習慣と疾病 ・感染症と健康 ・薬物乱用と健康 ・運動・食事・休養や睡眠と健康 ・がん ・模擬授業(マイクロティーチング)
10		「心身の機能の発達と心の健康」の教材化 ・心身の機能の発達 ・ストレスと心身の関係 ・「体はくじ運動」と心身の健康(保健と体育の連携) ・模擬授業(マイクロティーチング)
11		「傷害の防止、健康な生活と疾病」の教材化と授業化 ・学習指導案作成(心肺蘇生の習得・応急手当の理論と実際) ・学習指導案作成(各種運動やスポーツ中の傷害とその対応・保健と体育の連携)
12		「健康と環境」の教材化と授業化 ・学習指導案作成(大気汚染・水質汚濁) ・学習指導案作成(典型教材としての公害病-水俣病・四日市ぜんそく、気象条件と環境-熱中症など、快適な生活環境・家庭生活環境と健康)
13		高校保健「現代社会と健康」「傷害を通じた健康」「社会生活と健康」の教材化 ・典型教材を選択した模擬授業(マイクロティーチング)の実施 ・模擬授業(マイクロティーチング)の評価と振り返り及び討議
14		現代的健康課題と保健授業/保健模擬授業の評価 ・がん教育 ・ICTを用いた保健授業の応用 ・健康評価を用いた保健授業 ・教師行動の評価(QCシートの活用)
15		総括

授業名	保健体育科教育法Ⅳ
Course	Methodology of Health and Physical Education IV
単位数	2単位
担当教員名	◎笠井 義明
授業形態	講義
授業の概要	<p>本授業では、学習指導要領及び学習指導要領解説保健体育編の趣旨を踏まえながら、各自が模擬授業実施とその振り返りを行い、コミュニケーション能力や論理的な思考の育成を図ると共に、情報通信技術の活用を含めた教授技術の向上を目指す。主に、学習指導案の作成と教科内容の指導方法に関わる知識と技能について、実践的に修得する。また、体育分野と保健分野で示された内容について相互の関連が図れるように留意する。さらに、「カリキュラム・マネジメント」「主体的・対話的で深い学び」について理解を深める。</p> <p>「体育」では、「体づくり運動・器械運動・陸上運動・水泳・球技・武道・ダンス・体育理論」の目標・内容・指導方法・評価を明示し、模擬授業実践後の振り返りも重視する。</p> <p>「保健」では、指導計画、指導案の作成、板書計画などの授業作りの基本を学んだ後、中学校の内容に沿った模擬授業を行い、授業後の授業評価を通じてお互いの実践力を高めていく。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校保健体育・高等学校保健体育の目標と主な内容等を理解している。</li> <li>・保健体育で取り扱うICT機器をはじめとした情報通信技術の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。</li> <li>・保健体育科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでの学習を基礎として、学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。</li> <li>・模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。</li> <li>・保健体育における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。</li> </ul>
提出課題等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 授業のまとめを毎時間行い提出する。</li> <li>2) 最終レポートとして、典型教材（体育分野・保健分野各々）での単元計画・学習指導案を作成し、提出する。</li> </ol>
成績の評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬授業の実施・省察の状況(30%)</li> <li>・授業内プレゼンテーション(20%)</li> <li>・授業内活動への参加状況(30%)</li> <li>・最終レポート(20%)</li> </ul>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校学習指導要領解説（保健体育）（平成29年7月 文部科学省）</li> <li>・高等学校学習指導要領解説（保健体育編・体育編）（平成30年7月 文部科学省）</li> </ul>
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校学習指導要領（平成29年3月 文部科学省）</li> <li>・高等学校学習指導要領（平成30年3月 文部科学省）</li> <li>・中学・高校保健体育教科書(2018)（大修館書店）</li> <li>・学び手の視点から創る中学校・高等学校の保健体育授業：体育編（2016）（大学教育出版）</li> </ul>
履修条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 保健体育科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの単位修得者。</li> <li>2) 全出席が単位認定の条件。</li> <li>3) 欠席・遅刻は原則、認めない。</li> </ol>
事前学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 授業の最後に次時の内容を伝えるので、事前学習を行うこと</li> <li>2) 授業内で発表や模擬授業を行う機会があるので、事前に準備あるいはグループの場合は互いの意見交換や作業を行っておくこと</li> <li>3) 最終レポートを作成する上で必要な知識、情報を収集しておくこと</li> </ol>
事後学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 授業の内容を整理し、次回授業までに完全に理解しておくこと</li> <li>2) 復習のための課題を与えることもあるため、既習内容をノートに記述し、振り返ること</li> </ol>
履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 教員を志す高い意欲を有する学生を望む</li> <li>2) 教員を志す者にふさわしいマナー（時間厳守、私語、活動しやすい服装等）を守り、授業に臨む</li> <li>3) グループ学習を行うので、学生同士でよく相談、打ち合わせを行う</li> <li>4) 中学、高校で教壇に立つ自分の姿をイメージする</li> </ol>
シラバス自由項目1	授業内で使用する情報機器操作に慣れておく
知識・理解【基礎理論】	30
思考・判断・表現【課題】	30
関心・意欲・態度【当】	20
技能【情報リテラシー】	20

授業計画（テーマ、スケジュール）

No	担当教員	授業内容
1		オリエンテーション ①保健体育のこれまでとこれから ②気づきによる体育授業の在り方（主体的・対話的で深い学びの方法）
2		より良い体育授業を創るための理論と方法 （反省的実践家としての教師行動及び指導案作成）
3		ルーブリックの作成と共有 （学習と指導と評価の一体化、カリキュラム・マネジメント）
4		体育分野の領域別指導法（模擬授業A,Bチーム1回目と省察） ①体づくり運動・ダンス ②器械運動・陸上競技・水泳
5		体育分野の領域別指導法（模擬授業C,Dチーム1回目と省察） ③球技・武道 ④体育理論
6		体育分野の領域別指導法（模擬授業A,Bチーム2回目と省察） ①体づくり運動・ダンス ②器械運動・陸上競技・水泳
7		体育分野の領域別指導法（模擬授業C,Dチーム2回目と省察） ③球技・武道 ④体育理論 発展的学習内容の探求と実践研究の動向を踏まえた授業設計・最終レポート提出
8		保健の授業作りと模擬授業①-学習指導案の作成の手順
9		保健の授業作りと模擬授業②-理解を深める板書の理論と学習指導案作成における板書計画の意義と評価 （情報通信技術の活用を含む）
10		保健の授業作りと模擬授業③-発問と課題提示（情報通信技術の活用を含む）
11		保健の授業作りと模擬授業④-実験実習の方法
12		保健の授業作りと模擬授業⑤-ディスカッション、ロールプレイングの活用
13		保健の授業作りと模擬授業⑥-思考力を高めよく分かる授業
14		振り返りとまとめ-授業の点検と評価
15		総括

授業名	教育原理
Course	Principles of Education
単位数	2単位
担当教員名	◎佐藤 知条
授業形態	講義
授業の概要	「教育（学習）」という営みを歴史的、文化的な視点から捉え、学校、家庭や地域社会における教育の機能及び相互の関連を学び、教育の本質と目標及び教育の現代的な意義を理解する。教育の歴史に関しては、近代日本の学校の制度や教育課程・内容の歴史を中心に、地域・社会・家庭・学校における教育の変遷について基礎的な知識を習得する。そこから教育に関する現代的な課題を理解する。さらに、教育の歴史のなかで現れてきた様々な教育の理念や教育思想について概観すると共にそれらを社会状況や制度、実践と関連して理解し、教育という営みを構造的に把握する。
授業の到達目標	教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。
提出課題等	毎回の授業時にミニレポートを課す。
成績の評価方法・基準	毎回のミニレポート（40%）、期末試験（60%）。 「知識及び理解」「関心・意欲・態度等」「学びに向かう力」の3つの観点から、教育目標に照らして学習状況を評価する。
テキスト	指定しない。
参考書	勝野正章他『問いからはじめる教育学』有斐閣、2015年。 上記以外は必要に応じて適宜指示する。
履修条件	なし
事前学習	授業の最後に次回の内容を伝える。資料等を読み込んでおくこと（2時間）。
事後学習	授業の内容を整理し、次回授業までに完全に理解しておくこと。復習及び応用・発展学習のために小レポートなどの課題を与える場合もある（2時間）。
履修上の留意点	なし
シラバス自由項目1	なし
知識・理解【基礎理論】	50
思考・判断・表現【課題】	30
関心・意欲・態度【当該】	10
技能【情報リテラシー】	10

授業計画（テーマ、スケジュール）

No	担当教員	授業内容
1		「教育」とはいかなる営みか
2		教育を成り立たせる要素（1）子どもと家庭
3		教育を成り立たせる要素（2）学校・教員と地域社会
4		学校とはいかなる場所かー近代学校の成立過程ー
5		近代国家の成立と近代学校教育
6		学校教育制度と教育法制
7		教育思想の系譜（1）古代から近世における教育思想
8		教育思想の系譜（2）近世から近代における教育思想
9		教育思想の系譜（3）児童中心主義
10		家族と教育（1）家族の伝統的機能とその変容
11		家族と教育（2）近代家族と学校教育
12		家族と教育（3）人口減少社会における家族と教育
13		生涯学習社会における教育
14		まとめ 教育と社会のこれからの展望する
15		定期試験

授業名	教職入門（教師論）
Course	Introduction to the Teaching Profession
単位数	2単位
担当教員名	◎佐藤 知条
授業形態	講義
授業の概要	本授業では現在の教師に求められる役割を理解し、教師となる意欲を高めると共に、教師として成長するために必要な知識、並びに意識や姿勢を獲得する。まず、現代日本の学校教育の意義と、そこにおける教師の役割と教職の社会的意義について理解する。次に、これまで社会が教師にどのような役割を求め、それがどのように変化してきたのか（教師像の変遷）を概観し、そこから現在の教師に求められる役割と、役割の重要性について理解する。さらに、具体的な事例を通して現在の教師の職務内容の全体像を理解し、学校に期待される多様な課題に対応するための同僚間連携や地域社会との連携などの必要性を学ぶ。
授業の到達目標	現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職のあり方を理解する。
提出課題等	毎回の授業時にミニレポートを課す。
成績の評価方法・基準	毎回のミニレポート（40%）及び筆記試験（60%）。 「知識及び理解」「関心・意欲・態度等」「学びに向かう力」の3つの観点から、教育目標に照らして学習状況を評価する。
テキスト	指定しない。
参考書	秋田喜代美・佐藤学編著『新しい時代の教職入門 第3版』有斐閣、2024年。 上記以外は授業中に適宜指示する。
履修条件	なし
事前学習	授業の最後に次回の内容を伝える。資料等について読み込んでおくこと（2時間）。
事後学習	授業の内容を整理し、次回授業までに完全に理解しておくこと。復習及び応用・発展学習のために小レポートなどの課題を与える場合もある（2時間）。
履修上の留意点	なし
シラバス自由項目1	なし
知識・理解【基礎理論】	50
思考・判断・表現【課題】	30
関心・意欲・態度【当該】	10
技能【情報リテラシー】	10

授業計画（テーマ、スケジュール）

No	担当教員	授業内容
1		教職とは
2		公教育の意義と目的
3		教職の法的位置づけと教師の職務（1）憲法と教育基本法
4		教職の法的位置づけと教師の職務（2）教育法規と教職
5		学校組織の中の教師
6		教職に求められる倫理
7		児童生徒と教師—現代社会における子ども
8		授業とカリキュラム（1）学習指導要領
9		授業とカリキュラム（2）カリキュラム・マネジメント
10		授業とカリキュラム（3）指導計画と授業計画
11		チーム学校（1）様々な教育課題と学校内の連携
12		チーム学校（2）保護者・地域社会と学校の連携
13		人口減少社会における学校と教職
14		まとめ あるべき教職像の模索
15		定期試験

授業名	教育社会学
Course	Sociology of education
単位数	2単位
担当教員名	◎松永 由弥子
授業形態	講義
授業の概要	人間と社会の関係について、社会の中で人間形成の役割を担う教育の在り方を学ぶ。その際、教育によって、社会が人間個人を規定すると同時に、人間が社会を作っているという両方の視点からの関係性を把握することに努める。具体的には、まずは現代社会の状況を理解し、その変化が生徒や学校教育にもたらす影響と課題、それに対応する教育政策の動向を把握する。その上で、これからの学校の在り方について、地域との連携・協働の観点及び学校安全と危機管理の観点から学んでいく。
授業の到達目標	社会の状況を理解し、その変化が子ども・若者、学校、教育にもたらす影響とそこから生じる課題を理解する。同時に、その課題に対応するための、「学校と地域の協働連携」の視点からの教育改革、学校安全の考え方の導入など、現代の教育政策の動向を理解する。また、現代公教育制度の原理について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識の習得と課題の理解を目指す。
提出課題等	子ども・若者を話題に取り上げたニュース記事を調べ、月に1回提出すること。
成績の評価方法・基準	月に1回課すレポートの結果、定期試験の結果から成績評価を行う。
テキスト	教育制度研究会編『要説教育制度[新訂第三版]』学術図書出版社
参考書	授業中に適宜指示する。
履修条件	教職課程を履修していること。
事前学習	教育に関する時事問題に関心を持ち、情報収集をしておくこと（2時間）。
事後学習	授業の内容を整理して復習し、次回の授業に備えること。復習のための課題を与える場合もある（2時間）。
履修上の留意点	教育に対する関心を強く持って、授業に臨むよう心掛ける。
シラバス自由項目1	情報収集において、スマートフォンを利用することがある。
知識・理解【基礎理論】	50
思考・判断・表現【課題】	20
関心・意欲・態度【当該】	20
技能【情報リテラシー】	10

授業計画（テーマ、スケジュール）

No	担当教員	授業内容
1		オリエンテーション（授業の概要・到達目標の説明）
2		社会における教育の役割～人間と社会の関係から～
3		近年の社会状況と子ども・若者
4		近年の社会状況と学校（1）「命を守る」学校安全への対応
5		近年の社会状況と学校（2）地域との関わり方
6		近年の社会状況と教育（1）家庭教育と子ども・若者
7		近年の社会状況と教育（2）社会教育と子ども・若者
8		公教育の原理と理念
9		教育基本法の理解（1）日本国憲法第26条と教基法第1章（教育の目的及び理念）
10		教育基本法の理解（2）第2章（教育の実施に関する基本）
11		教育基本法の理解（3）第3章（教育行政）
12		学校教育法の理解～第5章中学校、第6章高等学校を中心に～
13		子ども・若者に関わる法規・行政の理解
14		これからの社会を作る教育のあり方～地域との連携・協働、学校安全への対応をヒントに～
15		定期試験

授業名	教育心理学
Course	Educational Psychology (Development and Learning)
単位数	2単位
担当教員名	◎北本 遼太
授業形態	講義
授業の概要	教育心理学には、学習・発達・適応・評価という4本の柱がある。この授業では、その4つの柱について、①児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的な知識を身に付け、②各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解し、③児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的基礎理論を学び、④学習評価について考察していく。そのために必要な、様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的心理学理論を紹介する。
授業の到達目標	幼児・児童・生徒の心理的発達や心理的特徴を理解し、対応できることを到達目標とする。また、障害を持つ児童・生徒への対応ができることも到達目標とする。教育心理学の基本的な概念や理論と研究方法に関する講義を通じて、教育現場における指導実践に役立つ視点を習得させることを目的とする。具体的には、学習と記憶のメカニズム、動機づけ、学習方略とメタ認知、知識の獲得、道徳性の発達、発達障害、知能等について取り上げる。これら教育心理学の知見を学ぶことにより、教育現場において生じる様々な問題について、その問題の背景を正しく把握する力と有効な対処法を見つけ出すことをねらいとする。
提出課題等	・グループワークをもとにしたレポートを期間中に2回課す。
成績の評価方法・基準	以下の通りに評価する ・レポート（計2回）：30% ・期末テスト：60% ・グループワークへの参加態度：10%。
テキスト	・テキストは使用しない。 ・授業中にプリントを配付する。
参考書	キャリー・ロブマン、マシュー・ルンドクワイスト（著） ジャパン・オールスターズ（訳）、『インプロをすべての教室へ 学びを革新する 即興ゲーム・ガイド』、新曜社 中谷素之・中山留美子・町岳（著）、『エピソードに学ぶ 教育心理学：小さな日常に注目する』、有斐閣 その他、授業中に適宜紹介する。
履修条件	・教職の必修科目であるので、発達を踏まえた学習を支える指導について理解をしていること。
事前学習	・配付資料を事前に読み、理解した上で講義に臨むこと（2時間）。 ・分からない点や疑問に思う点をピックアップしておき、講義での確認・理解を深めてほしい。
事後学習	・ノートや資料を読み返し、講義の内容を再度よく整理し、次回講義までに理解しておくこと（2時間）。 ・分からない点や疑問な点については、遠慮せず授業中・授業終了後に質問してほしい。
履修上の留意点	・授業中はしっかりとノートをとること。 ・授業中に配付した資料をテキスト代わりに使用するので、自分で綴じて全ての配付資料を持参すること。 ・疑問を持ちながら授業を聞くこと。 ・質問等をするなど積極的に授業に参加すること。 ・グループワークや授業外でグループで取り組む課題を行なう際は、積極的に参加すること。
シラバス自由項目1	なし。
知識・理解【基礎理論】	90
思考・判断・表現【課題】	0
関心・意欲・態度【当】	10
技能【情報リテラシー】	0

**授業計画（テーマ、スケジュール）**

No	担当教員	授業内容
1		・教育心理学の研究手法と課題（発達・学習・適応の評価）
2		・遺伝と環境が発達に及ぼす影響、発達段階
3		・知能と性格
4		・知能の測定方法
5		・知能と学習・発達
6		・障害への対応（心身の障害） ・発達障害への対応
7		・学習と教授方法
8		・障害のある児童・生徒の学習の過程
9		・適応と不適応
10		・道徳性の発達と行動
11		・エピソード記憶と知識
12		・動機づけ
13		・教育活動の測定と評価
14		・到達点の再確認
15		・総括

授業名	特別支援教育総論
Course	Special support education General remarks
単位数	2単位
担当教員名	◎川端 奈津子
授業形態	講義
授業の概要	インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育の制度や理念を歴史的視点から理解し、障害の概念、教育の場、自立活動を含めた教育課程・教育内容についての基礎的な知識を学習する。また、聴覚障害、視覚障害、知的障害、肢体不自由、病虚弱、発達障害などの障害のある生徒の心身の発達、特性と適切な支援方法について理解し、個別的教育支援計画や個別の指導計画の意義と作成方法を知る。さらに、特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭との連携による支援体制の重要性について学習する。また、日本語を母語としない外国籍や貧困家庭、被虐待などその他支援の必要な生徒についても理解し、対応の必要性や方法を知る。
授業の到達目標	1. 障がいの概念や特性、特別支援教育の理念について説明できる。 2. 障がいのある児童・生徒の特性を学び、学習上または生活上の困難さを理解することができる。 3. 個別の教育的ニーズに対する知識や支援方法についての基礎的事項が説明できる。 4. 特別支援教育コーディネーターを中心とした学校・関係機関・家庭との連携による支援体制の重要性について知る。 5. 母国語や貧困等の問題のある児童・生徒の学習・生活上の困難さと対応方法について理解する。
提出課題等	毎回の授業でリアクションペーパーを記入して提出し、次回以降の授業において名前等を伏せて紹介していく。
成績の評価方法・基準	定期試験の結果、毎回の授業時に提出するリアクションペーパーの結果を本授業科目のルーブリックに適用して成績評価を行う。
テキスト	『改訂版 教員と教員になりたい人のための特別支援教育のテキスト』学研プラス 2022年発行
参考書	「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領」 文部科学省 「特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編」 文部科学省 「特別支援学校学習指導要領解説 総則編」 文部科学省
履修条件	なし
事前学習	授業の最後に次回の内容を伝えるので、テキストを読み込んでおくこと（2時間）。
事後学習	授業の内容を整理して次回までに十分理解しておくこと。復習のための課題を与える場合もある。（2時間）
履修上の留意点	・障がい児・者に関わるボランティア等があれば、積極的に参加し、授業での学びを深める機会としてください。 ・学生の習熟度によって、授業計画の内容を入れ替える場合があります。
シラバス自由項目1	・授業内で、情報収集のために自身のスマートフォンを使用することがある。
知識・理解【基礎理論】	60
思考・判断・表現【課題】	10
関心・意欲・態度【当該】	20
技能【情報リテラシー】	10

授業計画（テーマ、スケジュール）

No	担当教員	授業内容
1		インクルーシブ境域システムの構築1（特別支援教育の理念）
2		インクルーシブ教育システムの構築2（特別支援教育の歴史と現状）
3		特別支援教育の推進と仕組み1（早期からの相談と就学先決定）
4		特別支援教育の推進と仕組み2（個別的教育支援計画と個別の指導計画）
5		学校における取組1（校内委員会・特別支援教育コーディネーター）
6		学校における取組2（交流及び共同学習・センター的機能）
7		学校における取組3（通級による指導・特別支援学級）
8		学校における取組4（外国人・虐待・貧困・多様な性）
9		発達障害児等の理解と指導1（発達障害・学習障害）
10		発達障害児等の理解と指導2（注意欠陥多動性障害・自閉スペクトラム症）
11		発達障害児等の理解と指導（情緒障害・不登校・言語障害）
12		特別支援学校の教育課程と知的障害の理解と指導
13		障害児の発達特性と指導1（視覚障害・聴覚障害・盲ろう）
14		障害児の発達特性と指導2（肢体不自由・身体虚弱・重度重複障害）
15		定期試験

授業名	教育課程と方法
Course	Curriculum Design and Teaching Methodology
単位数	2単位
担当教員名	◎佐藤 知条
授業形態	講義
授業の概要	本授業では日本の学校教育の教育課程を学習指導要領の変遷を中心に概観し、歴史的、社会的な視点から現在の学習指導要領の内容とねらいを理解する。また、学校での教育課程（カリキュラム）編成に関する代表的な考え方を提示し、現在の学習指導要領のねらいを踏まえたカリキュラム編成のあり方を具体的な事例をもとに解説する。また、学年や教科の枠を超えて教育課程をとらえ、地域や児童生徒の実態をふまえて学校全体としてカリキュラムを編成・実施・評価・改善する「カリキュラム・マネジメント」の考え方や重要性を理解する。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育における教育課程の役割と意義を理解する。</li> <li>・教育課程編成の基本的な原理と、学校や地域の実態に即したカリキュラム編成の方法を理解する。</li> <li>・学校全体として教育課程を編成・実施・評価・改善する「カリキュラム・マネジメント」の意義を理解する。</li> </ul>
提出課題等	毎回の授業の最後に、授業で学んだことや授業を通して得られた疑問点などをまとめたリアクションペーパー（授業内レポート）を提出してもらう。 リアクションペーパーに書かれた疑問や質問は、可能な限り次回の授業の冒頭で補足をする。
成績の評価方法・基準	試験及びレポートの結果に基づき、成績評価を行う。評価の割合は、リアクションペーパー（授業内レポート）：40%、期末試験：60%。「知識及び理解」「関心・意欲・態度等」「学びに向かう力」の3つの観点から、教育目標に照らして学習状況进行评估する。
テキスト	指定しない。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校学習指導要領（平成29年改訂 文部科学省）</li> <li>・中学校学習指導要領（平成29年改訂 文部科学省）</li> <li>・高等学校学習指導要領（平成30年改訂 文部科学省）</li> <li>・小学校学習指導要領解説（平成29年7月 文部科学省）</li> <li>・中学校学習指導要領解説（平成29年7月 文部科学省）</li> <li>・高等学校学習指導要領解説（平成30年7月 文部科学省）</li> </ul> 上記以外は授業中に適宜指示する。
履修条件	なし。
事前学習	授業の最後に次回の内容について伝えるので、各自で参考文献を参照し、概略を理解してから授業に臨むこと（2時間）。
事後学習	レジュメを再読して理解を定着させること。また、授業の際に紹介する参考文献を読み、さらに学習を深めること（2時間）。☒
履修上の留意点	遅刻・欠席をしないこと。教職を志す学生としてふさわしい受講態度で、自主的に学ぶ姿勢を持つこと。
シラバス自由項目1	なし。
知識・理解【基礎理論】	40
思考・判断・表現【課題】	40
関心・意欲・態度【当】	20
技能【情報リテラシー】	0

授業計画（テーマ、スケジュール）		
No	担当教員	授業内容
1		ガイダンス：授業の概要の説明、教育課程の意義・カリキュラムという用語の意味の解説。
2		近代日本の教育課程：明治期から戦前期までの日本の学校教育の教育課程の変遷について扱う。
3		学習指導要領の変遷（1）：日本の学校教育で学び、教えることを示し、育成すべき人間像が明示された「学習指導要領」について扱う。終戦後から1950年代の学習指導要領の特徴について社会的背景とともに学ぶ。
4		学習指導要領の変遷（2）：1960年代から1980年代の学習指導要領を検討する。社会の変化とともに学習指導要領がどのように変化し、学校教育がどう変わったのか。当時の教科書や新聞、テレビの報道などを取りあげながら考える。
5		学習指導要領の変遷（3）：1990年代から2010年代の学習指導要領を検討し、社会の変化とともに学習指導要領がどのように変化し、学校教育がどう変わったのかを、当時の教科書や新聞、テレビの報道などを取りあげながら考える。
6		新学習指導要領で掲げられた学力観・学校像と教育課程：第2週から第5週までの学習を踏まえて、2018年に公示された新学習指導要領の教育課程の特徴を考える。
7		教育課程の編成方法（1）：さまざまな「スコープ」と教科編成のバリエーション
8		教育課程の編成方法（2）：教育内容の配列方法（シーケンス）とその背後の考え方
9		総合的な学習（探究）の時間の意義と教科横断型の教育課程編成
10		主体的・対話的で深い学びと教育課程編成
11		カリキュラム・マネジメントの意味と重要性
12		教育課程の現代的課題（1）：ヒドゥン・カリキュラム
13		教育課程の現代的課題（2）：市民性教育・メディアリテラシー教育他
14		授業内容の総括と学習到達点の再確認
15		定期試験

授業名	道徳教育
Course	Moral Education
単位数	2単位
担当教員名	◎中村 美智太郎
授業形態	講義
授業の概要	「道徳」についての理論的な理解を最初のステップとして、日本における道徳教育の歴史と学習指導要領の変遷を把握し、多様な視点から道徳指導についての考えを深めていく。そして、実際に教育現場で「道徳教育」を実践する際の基本的な方法論を獲得し、また道徳教育実践についての教材を開発することを通じて、よりよい道徳指導の可能性について考察を深める。毎回PowerPointによるスライドを使用する。授業内で質問をする時間も設け、自由な質問・討議を促す。授業は講義形式と模擬授業を含む発表形式の両方を取り、どちらも学生の主体的な参加により進めていく。
授業の到達目標	学生が道徳指導に関わる基本的な知識を身につけ、それらをヒントとしながら、道徳指導の可能性について深く考えることができること、また、道徳指導の実践及び実践についてのアイデアを多様に展開できることが到達目標である。学生が、単に知識の提示に終わるのではなく、自分自身が道徳指導について持つ課題に引きつけて多様な道徳指導上の視点から考えて実践できる可能性を見出す姿勢を身に付ける。
提出課題等	レポート課題（中間課題）を2回、定期試験を1回実施する。また、毎回講義内容の理解度を高める小課題を実施する。中間課題及び小課題の結果は、講義時あるいは講義後にフィードバックする。
成績の評価方法・基準	本授業で示した学習到達点に達しているか否かを可否の基準とし、定期試験及び2回のレポート課題（中間課題）の結果、毎回の授業時に提出する小課題の結果に基づき、その学習熟度によって成績評価を行う。
テキスト	教員から配付されるプリント資料
参考書	文部科学省『小学校 学習指導要領』（平成29年3月） 文部科学省『中学校 学習指導要領』（平成29年3月） 文部科学省『小学校 学習指導要領解説 総則編（平成29年6月）』2017年。 文部科学省『中学校 学習指導要領解説 総則編（平成29年6月）』2017年。 文部科学省『小学校 学習指導要領解説 特別の教科道徳編（平成29年6月）』2017年。 文部科学省『中学校 学習指導要領解説 特別の教科道徳編（平成29年6月）』2017年。 文部科学省『高等学校 学習指導要領（平成30年3月）』2018年。
履修条件	なし
事前学習	授業の最後に、次回の内容を伝える。また、授業内容に関する講義動画を視聴すること。また、配布プリント・ノート・参考書を読み込んでおくこと。（2時間）
事後学習	授業内容に関する講義動画を視聴すること。また、配布プリント・ノート・参考書に加え、紹介する参考図書等をもとに授業の内容を整理し、理解を深めること。配布プリントは整理・保管し、積極的に学習に活用すること。（2時間）
履修上の留意点	毎回の小課題に取り組むことで講義内容の理解を深めるとともに、配布プリントや小課題への取り組みをもとにしたグループでの話し合い、学習指導案作成等を通じて、自分の考えを表現する場面を多くもつことを予定している。自分事として積極的に取り組むことを期待する。対面授業ではPC・タブレットあるいはスマートフォンを持参のこと。
シラバス自由項目1	事前学習及び事後学習において授業内容に関わる動画資料等を活用することに加え、教職に必要な情報通信機器（Word等のアプリケーション及びGoogleフォームを含む）の使い方を身につける。いずれについても、自身のPC・タブレット・スマートフォンを使用し、積極的に教職における学びに活かすこと。
知識・理解【基礎理論】	20
思考・判断・表現【課題】	30
関心・意欲・態度【当該】	30
技能【情報リテラシー】	20

授業計画（テーマ、スケジュール）		
No	担当教員	授業内容
1		オリエンテーション：「道徳教育」「道徳指導」とはなにか、道徳と倫理
2		道徳の根拠は感情か理性か？：感情説と理性説の検討
3		道徳教育の現代的な諸課題：いじめ問題・情報モラルの問題
4		日本の道徳教育の歴史：明治期から現代まで
5		学習指導要領の変遷：小学校・中学校・高等学校
6		道徳授業の検討（1）：「価値の伝達」授業
7		中間課題（1）：読み物資料を使用した指導案作成とその解説・検討実践編：模擬授業
8		道徳授業の検討（2）：道徳性の発達理論
9		中間課題（2）：道徳授業の教材開発とその解説・検討
10		道徳授業の教材開発の実践：検討編実践編：模擬授業
11		道徳授業の検討（3）：「価値明確化」授業
12		道徳授業の検討（4）：「モラルスキルトレーニング」授業
13		「道徳の社会化」と道徳教育の在り方
14		まとめ：今後の道徳指導における問題と展望
15		定期試験

授業名	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法
Course	
単位数	2単位
担当教員名	◎中西 健一郎 佐藤 知条
授業形態	講義
授業の概要	特別活動及び総合的な学習の時間の意義・目標・内容について整理し、その指導の在り方について講義する。特別活動では、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」等の視点を持ち、活動の特質を踏まえた指導が可能となることを目指す。総合的な学習の時間においては、各教科を超えた学習内容に基づく探求的な学びを達成するための単元計画を作成し、指導内容を具体的に理解する。 (オムニバス方式/全14回)  (中西 健一郎/7回) 特別活動の意義・目的・内容及び指導法 (佐藤 知条/7回) 総合的な学習の時間の意義・目的・内容及び指導法
授業の到達目標	・特別活動及び総合的な学習の時間の教育的な意義や役割について理解する。 ・特別活動及び総合的な学習の時間の内容を実践事例及び受講生の体験を通して具体的に理解する。 ・特別活動及び総合的な学習の時間の重要性を確認し指導法及び教師の役割について理解する。
提出課題等	なし
成績の評価方法・基準	筆記試験50% 学期末レポート50%
テキスト	なし
参考書	授業内において配布した資料を参考として学習を進める。 「中学校学習指導要領」(平成29年3月 文部科学省) 「高等学校学習指導要領」(平成30年3月 文部科学省) 「中学校学習指導要領解説(総合的な学習の時間)(特別活動)」(平成29年7月 文部科学省) 「高等学校学習指導要領解説(総合的な探求の時間編)(特別活動編)」(平成30年7月 文部科学省)
履修条件	なし
事前学習	各授業内において、次の授業などに関する課題や資料を提示するので読んでおくこと。
事後学習	行った授業に関する振り返りのための学習行動(課題作成等)を指示するので取り組むこと
履修上の留意点	授業で得た知識を実際の教育現場で応用できるよう留意して履修すること
シラバス自由項目1	持参したスマートフォンの録画機能を活用し、振り返り等の教材にします。
知識・理解【基礎理論】	30
思考・判断・表現【課題】	30
関心・意欲・態度【当課】	20
技能【情報リテラシー】	20

#### 授業計画(テーマ、スケジュール)

No	担当教員	授業内容
1		特別活動の概要及び関係機関との連携について (担当:中西)
2		特別活動の目標及び各教科との関連性について (担当:中西)
3		学習指導要領と特別活動における学級と家庭の連携について (担当:中西)
4		学級活動・ホームルーム活動の理解と展開 (担当:中西)
5		生徒会活動の理解と展開 (担当:中西)
6		学校行事の理解と展開 (担当:中西)
7		特別活動の評価 (担当:中西)
8		総合的な学習の時間を実現している具体的な事例や手法に関する理解、それらに関する留意点、関連する学習評価について (担当:佐藤)
9		総合的な学習の時間における探求的な学習及び評価方法とその留意点 (担当:佐藤)
10		総合的な学習の時間の指導計画について (担当:佐藤)
11		総合的な学習の時間の実践事例について (担当:佐藤)
12		総合的な学習の時間の指導案作成について (担当:佐藤)
13		特別活動と各教科・道徳・総合的な学習の時間との関連 (担当:佐藤)
14		試験
15		試験の振り返り、解説、総括等 (担当:佐藤)

授業名	教育方法論
Course	Teaching Methodology in Education
単位数	2単位
担当教員名	◎佐藤 知条
授業形態	講義
授業の概要	本授業では、現在の児童生徒に育成すべき資質・能力について歴史的社会的な文脈から学び、その為に必要な教育方法について理解する。また、具体的な授業場面では教育内容や児童生徒の実情に応じて適切な指導の技術を用いる必要があることを理解し、授業の目標、用いる教材・教具、授業の展開、評価の観点等の要素を盛り込んだ指導案を自ら作成することで、授業づくりに必要な教育技術に関する基礎的な知識・技術を習得する。さらに、学校に導入されている情報通信機器の実情と、それらの利用に期待される教育的効果を学び、教育目的や内容に応じて必要な機器を適切に用いることの重要性を理解し、活用に必要な知識・技術を身に付ける。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからの学校教育において児童生徒に育成すべき資質・能力を把握し、そのために必要な教育の方法について理解する。</li> <li>・教育内容や子どもの実態に応じて適切な教育の技術があることを理解し、自ら実践するための指導案を作成することができる。</li> <li>・学校教育における情報通信機器の適切な利用法を理解する。</li> </ul>
提出課題等	毎回の授業の最後に、授業で学んだことや授業を通して得られた疑問点などをまとめたリアクションペーパー（授業内レポート）を提出してもらう。リアクションペーパーに書かれた疑問や質問は、可能な限り次の授業の冒頭で補足をする。また、授業内容を踏まえた単元の指導案の作成課題を課す。
成績の評価方法・基準	試験及びレポートの結果に基づき、成績評価を行う。評価の割合は、リアクションペーパー（授業内レポート）：30%、提出課題の指導案：40%、期末試験：30%。 「知識及び理解」「関心・意欲・態度等」「学びに向かう力」の3つの観点から、教育目標に照らして学習状況を評価する。
テキスト	指定しない。
参考書	田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之『新しい時代の教育方法 改訂版』有斐閣、2019年。 「中学校学習指導要領」（平成29年3月 文部科学省） 「高等学校学習指導要領」（平成30年3月 文部科学省） 「中学校学習指導要領解説」（平成29年7月 文部科学省） 「高等学校学習指導要領解説」（平成30年7月 文部科学省） 上記以外の参考書は授業内に適宜紹介する。
履修条件	教職課程を履修していること
事前学習	事前に次の内容を伝えるので、テキストの該当する部分や参考文献等を読み進め、概要を理解してから授業に臨むこと（2時間）
事後学習	レジュメを見直すとともに参考文献等を読み進め、内容の理解を確実なものにすること（2時間）
履修上の留意点	「教育原理」、「教職入門（教師論）」、「教育課程と方法」の各科目を履修済みで、内容を確実に理解していることが望ましい。
シラバス自由項目1	なし
知識・理解【基礎理論】	30
思考・判断・表現【課題】	30
関心・意欲・態度【当該】	20
技能【情報リテラシー】	20

#### 授業計画（テーマ、スケジュール）

No	担当教員	授業内容
1		ガイダンス：「教育方法」の意味の解説と授業の概要
2		教育思想と教育方法の歴史（1）：西洋における近代教育思想の展開と学校における授業のあり方の展開について解説する。
3		教育思想と教育方法の歴史（2）：明治期から昭和戦前期における授業のあり方の展開について解説する。
4		教育思想と教育方法の歴史（3）：戦後日本の「学力」をめぐる論争をたどり、そこから現在の教育方法の課題について考える。
5		教育目標と教育内容
6		学習に関する理論
7		学力の捉え方／学力の高め方
8		授業のデザイン
9		教材と教具、学習環境
10		情報通信機器の教育利用と課題
11		学習活動の評価
12		教科外学習のデザイン
13		幼児教育の教育思想と教育方法
14		授業内容の総括と学習到達点の再確認
15		定期試験

授業名	情報通信技術の活用
Course	Teaching Methodology on information and communication technology
単位数	1単位
担当教員名	◎佐藤 知条
授業形態	講義
授業の概要	学習指導において情報通信技術（ICT）を活用する必要性を理解するとともに、授業の中でICTを効果的に活用し指導方法の改善を図りながら児童生徒の学力向上につなげていくための基礎的理論と方法を学ぶ。児童生徒による情報端末の利用を通じた情報活用能力の育成や、教師による効果的なICT活用やの方法を具体的に理解し、教師の仕事の中で多様な形でICTを活用できるようになるための資質・能力を育成する。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の学校教育における情報通信技術の活用の意義と、教師としてそれらを活用するために必要な理論を理解する。</li> <li>・情報通信技術を効果的に活用した学習指導および校務のあり方を理解する。</li> <li>・児童生徒の情報活用能力を育成するための基礎的な指導法を身につける。</li> <li>・情報通信技術を活用した教材を作成するための基礎的な理論と方法を身につける。</li> </ul>
提出課題等	毎回の授業の最後に、授業で学んだことや授業を通して得られた疑問点などをまとめたリアクションペーパー（授業内レポート）を提出してもらう。リアクションペーパーに書かれた疑問や質問は、可能な限り次回の授業の冒頭で補足をする。また、授業内容を踏まえた単元の指導案の作成課題を課す。
成績の評価方法・基準	試験及びレポートの結果に基づき、成績評価を行う。評価の割合は、リアクションペーパー（授業内レポート）：30%、提出課題の指導案：40%、期末試験：30%。
テキスト	田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之『新しい時代の教育方法 改訂版』有斐閣、2019年。
参考書	武田明典・村瀬公胤編著『教師と学生が知っておくべき教育方法論・ICT活用』北樹出版、2022年。 「中学校学習指導要領」（平成29年3月 文部科学省） 「高等学校学習指導要領」（平成30年3月 文部科学省） 「中学校学習指導要領解説」（平成29年7月 文部科学省） 「高等学校学習指導要領解説」（平成30年7月 文部科学省） 上記以外は授業中に適宜指示する。
履修条件	教職課程を履修していること。
事前学習	事前に次回の内容を伝えるので、参考文献等を読み進め、概要を理解してから授業に臨むこと（2時間）
事後学習	レジュメを見直すとともに参考文献等を読み進め、内容の理解を確実なものにすること（2時間）
履修上の留意点	「教育原理」、「教職入門（教師論）」、「教育課程と方法」、「教育方法論」の各科目を履修済みで、内容を確実に理解していることが望ましい。
シラバス自由項目1	電子黒板、指導者用デジタル教科書を用いた模擬授業を実施する。
知識・理解【基礎理論】	30
思考・判断・表現【課題】	20
関心・意欲・態度【当該】	20
技能【情報リテラシー】	30

**授業計画（テーマ、スケジュール）**

No	担当教員	授業内容
1		ガイダンス 現在社会における情報通信技術の活用と学校教育における取り組みと環境整備の現状
2		視聴覚教育、ICTを活用した教育の理論
3		授業におけるICT活用（1）教師による利用
4		授業におけるICT活用（1）児童生徒による利用
5		情報モラルの育成
6		子どもの多様なニーズとICTの活用
7		学校における多様なICT活用（教材作成・評価・情報の共有・校務の効率化）
8		期末試験

授業名	生徒指導
Course	Student Guidance
単位数	2単位
担当教員名	◎一之瀬 敦幾
授業形態	講義
授業の概要	<p>生徒指導は、教育活動全体を通じて行われる学習活動と並ぶ重要な教育活動である。本講義では、組織的な生徒指導の実践に必要な知識・技能及び資質を獲得することを目標とする。教科における生徒指導、総合的な学習の時間における生徒指導、特別活動における生徒指導、生徒指導体制の組織化、生徒指導の意義・目的・内容及び指導法、教育課程における生徒指導の位置づけ、集団指導・個別指導の方法原理、学校運営と生徒指導などについて学習する。</p> <p>生徒指導の目的について理解し、その方法や留意点について学習する。また、いじめや体罰など実際の生徒指導の現状についても理解を深める。</p> <p>生徒指導の現状及び歴史について学習する。問題行動の全体像を把握し、実際の生徒指導や進路指導に関する実践についても理解する。</p>
授業の到達目標	生徒を取り巻く社会環境や生徒の実態及び近年の問題行動の特徴等について学習し、生徒理解の重要性や方法、これからの生徒指導のあり方や指導者としての教師の役割について理解する。
提出課題等	なし
成績の評価方法・基準	試験及びレポートの結果に基づき、成績評価を行う。
テキスト	なし
参考書	授業内において配布した資料を参考として学習を進める。 「生徒指導提要」（令和5年3月 文部科学省）
履修条件	なし
事前学習	新聞・雑誌等に目を通し、経済や社会の動向、教育問題等に関する情報収集を心がける。
事後学習	授業の内容を整理し理解を深めておく。
履修上の留意点	第1回目の授業に必ず参加すること。
シラバス自由項目1	パワーポイントによる講義情報提示、動画の提示
知識・理解【基礎理論】	50
思考・判断・表現【課題】	20
関心・意欲・態度【当該】	20
技能【情報リテラシー】	10

**授業計画（テーマ、スケジュール）**

No	担当教員	授業内容
1		ガイダンス（生徒指導と学校教育）
2		生徒指導の意義と役割
3		生徒指導の目的（適応と発達）
4		生徒指導の歴史（戦後の問題行動等の推移と背景）
5		生徒理解の方法・留意点
6		生徒指導の実際（ホームルーム活動・教科指導の中での指導）
7		問題行動の分類・特徴
8		問題行動への対応方法
9		いじめの背景と実態
10		いじめの対策と予防
11		不登校について
12		懲戒と体罰
13		教育相談や進路指導のあり方
14		試験
15		試験の振り返り、解説、総括等

授業名	教育相談
Course	Educational Counseling
単位数	2単位
担当教員名	◎佐瀬 竜一
授業形態	講義
授業の概要	本授業は、①教育相談に関わる心理学の理論・概念、②不適応や問題行動のメカニズムとその対処法、③カウンセリングを中心とした個別・組織的な教育相談の進め方、の3点について実践的理解が得られるように授業を行う。授業の中で心身を落ち着かせるワークを活用し、計画に沿った授業を行う。また、講義形式に加えて協同学習形式の体験型授業を多く取り入れて、コミュニケーションスキルの向上も目指す。これらを通して中学校・高等学校での教育相談に関わる教育実践力を高めることを目的とする。
授業の到達目標	教育相談の概要についての分かりやすいプレゼンテーションを行うことができる。児童及び生徒の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉えることができる。支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を理解して分かりやすく説明することができることに加えて、カウンセリングの知識を実際に活用することができる。
提出課題等	毎回授業後にGoogleフォームに入力する課題を課す。全員の回答を無記名で取りまとめてフィードバックする。
成績の評価方法・基準	第15回で課す期末レポート（40%）、毎回課すGoogleフォーム（60%：15回×4%）、 <input checked="" type="checkbox"/>
テキスト	特定のテキストは配布しない。適宜資料を紙媒体もしくは電子媒体で提供する。
参考書	参考文献（書籍、論文）を授業中に指示する
履修条件	なし
事前学習	授業に必要なものを事前に授業や掲示等で連絡する。それらを準備し、授業に臨むこと(2時間)。
事後学習	授業の内容を整理し、次回授業までに完全に理解しておくこと。復習及び応用・発展学習のために小レポートなどの課題を与える場合もある(2時間)。
履修上の留意点	教職履修者にふさわしい立ち振る舞い、授業への取り組みを期待する。許可のないスマートフォンの利用、私語など他の受講生の迷惑になる行為に対しては厳しく対処する。毎回学生証を持参すること。  授業で配布するプリントは、必ず整理して保存、持参すること。
シラバス自由項目1	インターネットに繋がるスマートフォンかタブレットを用いて課題の作成と提出を行う。
知識・理解【基礎理論】	30
思考・判断・表現【課題】	30
関心・意欲・態度【当課】	20
技能【情報リテラシー】	20

授業計画（テーマ、スケジュール）

No	担当教員	授業内容
1		ガイダンス、教育相談とは？
2		教育相談の基礎知識（1）：発達
3		教育相談の基礎知識（2）：アセスメント、個人差 <input checked="" type="checkbox"/>
4		教育相談の基礎知識（3）：ストレス <input checked="" type="checkbox"/>
5		不適応とは：なぜ人は悩み苦しむのか？ <input checked="" type="checkbox"/>
6		カウンセリングの基礎訓練（1）：関係をつくる <input checked="" type="checkbox"/>
7		カウンセリングの基礎訓練（2）：聴く
8		カウンセリングの基礎訓練（3）：質問する
9		カウンセリングの基礎訓練（4）：伝える、まとめる
10		問題行動の理解と対処（1）：不登校
11		問題行動の理解と対処（2）：いじめ
12		問題行動の理解と対処（3）：虐待
13		教育相談の実際（1）：発達障がいの理解と対応
14		教育相談の実際（2）：連携と支援計画
15		まとめと振り返り、レポート試験

授業名	進路指導
Course	Career Guidance
単位数	2単位
担当教員名	◎松永 由弥子
授業形態	講義
授業の概要	<p>進路指導は、生徒が自ら将来を見据えてそれぞれの能力を伸ばせるよう、組織的・継続的な指導を行う過程を指し、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。その中で、変化の激しい今日の社会にあっては、生徒に、能力向上を目指した生涯学習の必要性やよりよい社会の維持を支える人格形成の重要性を伝えることも重要である。このような社会的・職業的な自立を促す進路指導を行うために必要な考え方、ガイダンス・カウンセリング機能を含んだ指導方法の理論的・体験的習得を目指す。</p> <p>具体的には、教育課程における進路指導の意義を十分理解できるように、生涯にわたる長期的展望に立った人間形成という観点からの進路指導・キャリア教育の意義、社会情勢や青少年の現状という進路指導の背景、進路指導・キャリア教育における体験活動・自己評価に関する意義ならびにポートフォリオの活用とガイダンスとしての指導方法の意義などを学習する。</p> <p>また、学校教育における進路指導のあり方の全体を理解できるように、教育課程における進路指導・キャリア教育の位置づけ、学校の教育活動全体を通じた進路指導・キャリア教育の在り方、組織的な指導体制づくり及び、インターンシップやキャリアカウンセリングの現状と意義などを学習する。</p>
授業の到達目標	進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解し、教育課程における進路指導・キャリア教育の位置づけ及び進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携の在り方を理解している。指導上では、全ての生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方（ガイダンスとしての指導）及び個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方（カウンセリングとしての指導）を理解している。
提出課題等	学生自身の自己評価シート、ポートフォリオ。
成績の評価方法・基準	試験の結果や課題への取り組み状況に基づき、成績評価を行う。
テキスト	吉田武男監修・藤田晃之編著『キャリア教育(MINERVAはじめて学ぶ教職19)』ミネルヴァ書房
参考書	・村上龍『新13歳のハローワーク』幻冬舎 ・秦明雄『13歳から君を幸せにする15の教え』東京図書出版
履修条件	教職課程を履修していること。
事前学習	課題を確実に完成させる。次の授業の予告に沿って、テキストや配布プリントを通読しておくこと。（2時間）
事後学習	ノートやテキスト・プリント等を活用して、授業の内容を振り返り理解を深める（2時間）。
履修上の留意点	遅刻・欠席をしない。教職を目指す学生であるとの自覚を持ち、主体的に学ぶこと。
シラバス自由項目1	情報収集において、スマートフォンを利用することがある。
知識・理解【基礎理論】	40
思考・判断・表現【課題】	30
関心・意欲・態度【当該】	20
技能【情報リテラシー】	10

#### 授業計画（テーマ、スケジュール）

No	担当教員	授業内容
1		オリエンテーション（授業の概要・到達目標の説明）
2		進路指導・キャリア教育の意義（1）～長期的展望に立った人間形成～
3		進路指導・キャリア教育の意義（2）～生涯を通じたキャリア形成の視点から～
4		社会情勢と青少年の進路・キャリア
5		青少年の現状と進路・キャリア
6		進路指導・キャリア教育における体験活動の意義
7		キャリア形成における自己評価の意義
8		教育課程における進路指導・キャリア教育の位置づけ
9		学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方
10		組織的な指導体制づくり
11		職業に関する体験活動（インターンシップ）の意義
12		ガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義と留意点
13		生涯を通じたキャリア形成と自己評価～ポートフォリオの活用を中心に～
14		キャリアカウンセリングの基礎的な考え方とその方法
15		定期試験

授業名	事前事後指導（3年のみ）（保健体育）
Course	Teaching Practice Preparation
単位数	2単位
担当教員名	◎中西 健一郎 徐 広孝 松永 由弥子 笠井 義明
授業形態	講義
授業の概要	教育実習の意義について理解するために、事前指導では学校教育現場における実践的な教育活動に参画する意識を高める。また事後指導では、実際に教育実習を通して得た実践的且つ応用性の高い知見を学生間で共有し、教員免許取得までの時間の中で習得すべき知識・技能を理解する。 事前指導（3年次後期）：教育実習の意義・目的・内容及び現状理解、教育実習生として遵守すべき義務、観察・参加の基礎基本の習得、授業づくりの基礎基本の習熟、生徒指導の実際、自己課題の明確化等を行う。 事後指導（4年次前期）：教育実習を経て得られた成果と課題を学生間で共有する（グループによる発表等）。また教育実習を経て獲得された教育実践での知識の明確化と実践的な教育観・教職観の形成を行う。
授業の到達目標	事前指導においては、主として教師としての使命感及び教科指導力、生徒指導力、学校における各種業務を遂行する基礎力を育成する。事後指導においては、「教育実習」を振り返り、教職への意思を確立させるとともに、自己の課題を明らかにする。
提出課題等	授業担当者の指示に従うこと。
成績の評価方法・基準	後期は模擬授業と学習指導案、前期は提出課題等に基づき、前・後期各50%ずつで評価する。
テキスト	『教育実習ノート』『学習指導要領 保健体育編』 各教科教育法において用いた検定済み教科書、副教材等
参考書	『教員採用試験対策セミナー 教職教養』 『教員採用試験対策セミナー 一般教養』 『教員採用試験対策ステップアップ問題集 専門教科 中学・高校保健体育』 いずれも東京アカデミー七賢出版
履修条件	教職課程履修者であり、翌年度「教育実習Ⅰ」若しくは「教育実習Ⅱ」を履修予定であること。
事前学習	教育実習校の概要について把握するとともに、教科指導力を高めるため、自発的に教材研究に取り組むこと。『教育実習ノート』に学習した内容を整理し記録すること。（2時間）
事後学習	教育実習後は、教科指導力・生徒理解・使命感等様々な角度から自己の取組を振り返り、課題を明確にするよう努めること。『教育実習ノート』に教育実習を振り返り、自己の課題や自己評価を記録すること。（2時間）
履修上の留意点	「教育実習」を行う責務の重大さを十分自覚し、欠席・遅刻等することなく、真剣に取り組むこと。 三年後期、四年前期と一年にわたる講義となる。
シラバス自由項目1	学校現場で使用されているICT環境等に触れる予定である。
知識・理解【基礎理論】	30
思考・判断・表現【課題】	30
関心・意欲・態度【当】	20
技能【情報リテラシー】	20

授業計画（テーマ、スケジュール）

No	担当教員	授業内容
1		(3年後期第01回) 前半オリエンテーション
2		(3年後期第02回) 学習指導案の作成①
3		(3年後期第03回) 学習指導案の作成②
4		(3年後期第04回) 学習指導案の作成③
5		(3年後期第05回) 学習指導案の作成④
6		(3年後期第06回) 学習指導案の作成⑤
7		(3年後期第07回) 学習指導案の作成⑥
8		(3年後期第08回) 模擬授業①
9		(3年後期第09回) 模擬授業②
10		(3年後期第10回) 模擬授業③
11		(3年後期第11回) 模擬授業④
12		(3年後期第12回) 模擬授業⑤
13		(3年後期第13回) 模擬授業⑥
14		(3年後期第14回) 模擬授業⑦
15		(3年後期第15回) 前半の総括
16		(4年前期第01回) 後半オリエンテーション
17		(4年前期第02回) 教育実習の意義と目的、心構え
18		(4年前期第03回) 生徒指導
19		(4年前期第04回) 公務分掌
20		(4年前期第05回) 教科外活動
21		(4年前期第06回) 教材研究①体育
22		(4年前期第07回) 教材研究②保健
23		(4年前期第08回) 教育実習報告会①
24		(4年前期第09回) 教育実習報告会②
25		(4年前期第10回) 教育実習報告会③
26		(4年前期第11回) 教育実習報告会④
27		(4年前期第12回) 教育実習報告会⑤
28		(4年前期第13回) 教育実習ノートの整理①
29		(4年前期第14回) 教育実習ノートの整理②
30		(4年前期第15回) 後半の総括

授業名	事前事後指導（4年のみ）（保健体育）
Course	Teaching Practice Preparation
単位数	2単位
担当教員名	◎中西 健一郎 徐 広孝 松永 由弥子 笠井 義明
授業形態	講義
授業の概要	「教育実習」（4年次）は、教師としての実践的な指導力を形成する上で重要な授業である。また、教員が行う数々の仕事のなかで、教科指導は中核をなす重要な業務であり、教育実習に出かける前に、教科に関する専門的な知識・技能を十分修得するとともに、生徒の実態を踏まえた実践的な指導力を身に付ける必要がある。本授業では、模擬授業を中心として、学生全員が1時間（50分）の模擬授業を行うことを基本とし、実践的に学ぶ。また、事後の振り返りを行う。
授業の到達目標	事前指導においては、主として教師としての使命感及び「教科指導力」を育成する。事後指導においては、「教育実習」を振り返り、教職への意思を確立させるとともに、自己の課題を明らかにする。
提出課題等	随時、指示する。
成績の評価方法・基準	後期は模擬授業と学習指導案、前期は提出課題等に基づき、前・後期各50%ずつで評価する。
テキスト	『教育実習ノート』『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編 平成29年7月』『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編 体育編 平成30年7月』
参考書	授業の中で、随時、紹介する。
履修条件	教職課程履修者であり、翌年度「教育実習Ⅰ」若しくは「教育実習Ⅱ」を履修予定であること。
事前学習	教育実習校の概要について把握するとともに、教科指導力を高めるため、自発的に教材研究に取り組むこと。『教育実習ノート』に学習した内容を整理し記録すること。（2時間）
事後学習	教育実習後は、教科指導力・生徒理解・使命感等様々な角度から自己の取組を振り返り、課題を明確にするよう努めること。『教育実習ノート』に教育実習を振り返り、自己の課題や自己評価を記録すること。  （2時間）
履修上の留意点	「教育実習」を行う責務の重大さを十分自覚し、欠席・遅刻等することなく、真剣に取り組むこと。  三年後期、三年集中講義（9月・2月）、四年前期と一年にわたる講義となる。9月及び2月の集中講義には必ず出席すること。
シラバス自由項目1	
知識・理解【基礎理論】	30
思考・判断・表現【課題】	30
関心・意欲・態度【当座】	20
技能【情報リテラシー】	20

授業計画（テーマ、スケジュール）

No	担当教員	授業内容
1		（3年後期第一回） 教育実習の意義と目的  ガイダンス
2		（3年後期第二回） 学習指導案の作成の仕方
3		（3年後期第三回） 学習指導案の作成・検討
4		（3年後期第四回） 学習指導案の作成・検討
5		（3年後期第五回） 学習指導案の作成・検討
6		（3年後期第六回） 模擬授業及び相互評価
7		（3年後期第七回） 模擬授業及び相互評価
8		（3年後期第八回） 模擬授業及び相互評価
9		（3年後期第九回） 模擬授業及び相互評価
10		（3年後期第十回） 模擬授業及び相互評価
11		（3年後期第十一回） 模擬授業及び相互評価
12		（3年後期第十二回） 模擬授業及び相互評価
13		（3年後期第十三回） 模擬授業及び相互評価
14		（3年後期第十四回） 模擬授業及び相互評価
15		試験
16		（3年後期・集中講義形式による授業）  9月 県教育委員会人事管理主事による講話、現役教員による模擬授業及び講話
17		2月 講義（教育実習の意義、学校外の教育施設における教育、学習指導案の作成等）  講話（現役教員及び先輩教員） 高校訪問（授業参観） 等
18		（4年前期第一回） オリエンテーション
19		（4年前期第二回） 教育実習重要事項の確認及び指導
20		（4年前期第三～八回） 学習指導案・単元計画の作成～個別学習及びグループ学習～
21		（4年前期第九～十一回） 教育実習報告会
22		（4年生前期第十二回～十三回） 教育実習ノートの整理
23		（4年生前期第十四回） 自己評価及び課題の整理
24		（4年生前期第十五回） 総括



授業名	教育実習Ⅱ
Course	Teaching Practice II
単位数	2単位
担当教員名	中西 隆一郎 池 正孝 松本 由希子 笠井 慶明
授業形態	実習
授業の概要	教育実習は、これまでに積み上げてきた教義、学問的認識や思考方法、教育に関する理論や専門知識、教育事業についての研究的態度や研究方法などを、現場教員指導の下に、教職実践者の主要な活動領域における実地体験を通して検証し、応用する機会である。教職課程での教職に関する科目・教科に関する科目において学んできた専門知識と技術を統合し、中学校において3週間の実習を行い、実際の教育現場での体験を経て教員としての実践力を養う。
授業の到達目標	1～3年次に学んだ、教科に関する専門的な知識・技能や教科教育法、道徳教育、さらには生徒指導、特別活動等を実際に学校において指導することにより、実践的な指導力を高める。併せて、自分の課題を把握する。
提出課題等	『教育実習ノート』に必要事項を詳細に記載し、指導教員の指導を受ける。研究授業の学習指導案を『教育実習ノート』の該当ページに添付する。実習後、教育実習全体を振り返り、必要事項を記載し提出する。
成績の評価方法・基準	教育実習校の校長及び担当教員の評価と本学教員による実習校訪問時における授業観察等に基づき評価する。
テキスト	『教育実習ノート』（教職課程大学）
参考書	必要に応じて紹介する。
履修条件	3年次までの必修科目を、原則として修得済みであること。 『教育実習』履修年度に免許状取得に必要なすべての単位を修得し、かつ卒業見込みであること。詳細は、『教職課程ガイドブック』に記載されている「教育実習の履修資格」を熟読すること。
事前学習	『教育実習』前には、実習校と連絡を取りつつ、教科指導の準備を念入りに行う。教育実習開始後は、毎日、翌日の勤務を整理するとともに、特に授業の教材研究を念入りに行う。（2時間以上）
事後学習	『教育実習』を振り返り、『教育実習ノート』に必要事項を詳細に記載する。（2時間以上）また、『教育実習報告書』（A4）の各項目に記載し提出する。
履修上の留意点	学級担任を務め、授業を実施する責務を強く自覚し、責任を持ってやり遂げること。 『教育実習』中の欠席・遅刻・早退は、原則として認めない。 なお、この授業を履修するためには、『教職課程ガイドブック』に記載されている、「教育実習の履修資格」を満たすとともに、「事前事後指導」（3年次学期～4年次前期）を必ず受講し、良好な成績を収めることが必要であることに十分留意する。
シラバス自由項目1	
知識・理解【基礎理論】	30
思考・判断・表現【新】	20
関心・意欲・態度【基】	30
技能【情報リテラシー】	20

教員計画（テーマ、スケジュール）		
No	担当教員	指導内容
1		指導教員等の授業を数多く参観し、教育方法や教材の準備の仕方等について学ぶ。 学級担任（ホームルーム担任）として、特別活動等の指導にも従事する。 さらに、生徒の実態を把握する。
2		指導教員等の授業を数多く参観し、教育方法や教材の準備の仕方等について学ぶ。 学習指導案を作成し、授業を実施する。 学級担任として、特別活動等の指導にも従事する。
3		学習指導案を作成し、授業を実施する。 学級担任として、特別活動等の指導にも従事する。
4		学習指導案を作成し、授業を実施する。 学級担任として、特別活動等の指導にも従事する。 「研究授業」を行い、校長始め多くの教員から指導・助言を得る。
5		学習指導案を作成し、授業を実施する。 学級担任として、特別活動等の指導にも従事する。 「研究授業」を行い、校長始め多くの教員から指導・助言を得る。
6		学習指導案を作成し、授業を実施する。 学級担任として、特別活動等の指導にも従事する。 「研究授業」を行い、校長始め多くの教員から指導・助言を得る。
7		学習指導案を作成し、授業を実施する。 学級担任として、特別活動等の指導にも従事する。 「研究授業」を行い、校長始め多くの教員から指導・助言を得る。
8		学習指導案を作成し、授業を実施する。 学級担任として、特別活動等の指導にも従事する。 「研究授業」を行い、校長始め多くの教員から指導・助言を得る。
9		学習指導案を作成し、授業を実施する。 学級担任として、特別活動等の指導にも従事する。 「研究授業」を行い、校長始め多くの教員から指導・助言を得る。
10		学習指導案を作成し、授業を実施する。 学級担任として、特別活動等の指導にも従事する。 「研究授業」を行い、校長始め多くの教員から指導・助言を得る。
11		学習指導案を作成し、授業を実施する。 学級担任として、特別活動等の指導にも従事する。 「研究授業」を行い、校長始め多くの教員から指導・助言を得る。
12		学習指導案を作成し、授業を実施する。 学級担任として、特別活動等の指導にも従事する。 「研究授業」を行い、校長始め多くの教員から指導・助言を得る。
13		学習指導案を作成し、授業を実施する。 学級担任として、特別活動等の指導にも従事する。 「研究授業」を行い、校長始め多くの教員から指導・助言を得る。
14		学習指導案を作成し、授業を実施する。 学級担任として、特別活動等の指導にも従事する。 「研究授業」を行い、校長始め多くの教員から指導・助言を得る。
15		総括

授業名	教職実践演習（中・高）
Course	Teaching Practice Seminar
単位数	2単位
担当教員名	◎中西 健一郎 笠井 義明 徐 広孝 松永 由弥子
授業形態	演習
授業の概要	教職に関連する科目及び教育実習等を経て獲得した体験的かつ実践的な知見との関連について省察し、自らの教育者としての特性について分析する。また、学校教育現場における今日的な課題に対する分析や、GIGAスクール構想の実現に伴う教員のICT活用スキル、およびそれらの実際の対応方法などについてディスカッション形式を通して学びを深めていくを試みる。本授業により、これまでの教師としての資質獲得を目指した学習を総括し、教育者として必要な知識、技能、心構えを向上させ、実際に教師となった後の自己研鑽についても理解を深める。
授業の到達目標	中学高等学校保健体育科教員免許の必修科目として、教職科目の総仕上げの科目として、教育に対する価値観や教育実践能力の形成の意識付けを行う。教師に必要とされるコミュニケーション能力や教師として必要とされる教養などを含めた教師の在り方、実践的な指導力、学級（ホームルーム）形成としての学級（ホームルーム）経営、生活指導、生徒理解と教育相談、保護者・地域との連携、ICT活用スキルなどの諸点から、自己を評価し、教育職員としての資質、能力の形成状況を確認しながら、実践指導力の向上に務める。
提出課題等	毎回の授業後にリアクションペーパーを記入し提出する。
成績の評価方法・基準	講義における受講態度、毎回提出するリアクションペーパー、教職カルテなど、これまで蓄積されたレポートなどを総合的に評価する。
テキスト	・中学校学習指導要領（文部科学省） ・高等学校学習指導要領（文部科学省） ・中学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省） ・高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省） ・中学校保健体育検定教科書 ・高等学校保健体育検定教科書
参考書	授業中に資料を配付する。
履修条件	なし。
事前学習	課題研究にあたり、論文や書物を必ず読み、十分な準備をする。また、ビブリオ・バトルのため、本を読みノートに発表原稿を整理する。（2時間）
事後学習	授業終了後、ノートを整理する。また、授業で配布されたプリント等を活用して、学習事項の整理をする。課題が課された場合には、作成の上、期日までに必ず提出する。（2時間）
履修上の留意点	遅刻・欠席をしない。教職課程の仕上げの科目であり、真剣な取組が必要である。
シラバス自由項目1	
知識・理解【基礎理論】	50
思考・判断・表現【課題】	30
関心・意欲・態度【当日】	10
技能【情報リテラシー】	10

#### 授業計画（テーマ、スケジュール）

No	担当教員	授業内容
1		教職実践演習（中高）の意義と目的
2		教育職員の在り方－教育の意義と学校教育
3		教育職員の在り方－学校教育の中での教師の役割 （現職教員や教員経験者の講演）
4		学級形成－学級・ホールーム経営の意義と学級・ホームルームづくり （特別活動の実際）
5		学級形成－集団の把握と学校生活
6		学級形成－集団の把握と生活指導
7		学級形成－生徒理解と教育相談 （スクールカウンセリングの実際）
8		学級形成－保護者・地域・校内組織との連携
9		実践的な指導力－教材研究と教材解釈 （フィールドワークの実際）
10		実践的な指導力－授業づくりとその評価 （事例研究の実際）
11		実践的な指導力－指導方法・指導技術と評価の観点 （ディスカッション、ブレインストーミング、ロールプレイング、ICTを活用した教育活動の実際）
12		実践的な指導力－中学校高等学校保健体育科授業の実際 （模擬授業およびICTを活用した授業の実際）
13		学校現場における教育課題の探求
14		振り返り－教育職員としての資質、能力の自己評価
15		総括

授業名	日本国憲法
Course	Japanese Constitution
単位数	2単位
担当教員名	◎小泉 祐一郎
授業形態	講義
授業の概要	日本国憲法は、施行からおよそ70年余が経過し、過去様々な議論に晒されながらも戦後日本の進路に対して、わが国の最高法規として基本的な方針を示してきた。今般、改正の是非が囁かれるなか、その存在意義が問われている。本講義では、日本国憲法の二大テーマである基本的人権及び統治機構を中心に論じつつ、現在議論が高まっている憲法改正、また、天皇の生前退位等にも言及する。
授業の到達目標	日本国憲法の基本原理を論じつつ主要な学説及び判例を紹介し、憲法に対する基本的な理解を深めてもらうと共に、リーガルマインドを育てることを目標とする。判例検索の方法、六法の読み方及び憲法特有の語彙や言い回しについても可能な限り解説し、半年間の講義終了後には、それらもマスターしてもらう予定である。
提出課題等	毎回、講義ノート提出する。
成績の評価方法・基準	中間試験(40%)、定期試験(40%)、講義ノート(20%)で評価する。
テキスト	使用しない(毎回レジュメを配布)。
参考書	講義の中で紹介する。
履修条件	新聞、テレビ、SNSの時事の情報を憲法との関係で意識的に考えること。
事前学習	毎回の講義で次回の憲法の条文を示すので、次回までに条文を読んで暗記しておくこと。
事後学習	復習用の教材の資料を印刷物で配布し、学生ポータルにもPDFでアップするので講義を振り返るながら教材で理解を深めること。
履修上の留意点	講義ノートの用紙を配布し、毎回、回収して評価するので、講義ノートをしっかり記入すること。
シラバス自由項目1	講義の中で指示する。
知識・理解【基礎理論】	50
思考・判断・表現【課題】	20
関心・意欲・態度【当該】	20
技能【情報リテラシー】	10

授業計画 (テーマ、スケジュール)

No	担当教員	授業内容
1		憲法総論Ⅰ：憲法とは何か
2		統治総論：国民主権と権力分立
3		統治各論(1)：国会
4		統治各論(2)：内閣
5		統治各論(3)：裁判所
6		統治各論(4)：財政と地方自治
7		統治各論(5)：憲法改正の可能性 憲法総論Ⅱ：天皇の地位・平和主義
8		人権総論：人権保障の対象
9		人権各論(1)：幸福追求権と法の下での平等
10		人権各論(2)：精神的自由権
11		人権各論(3)：経済的自由権
12		人権各論(4)：社会権
13		人権各論(5)：人身の自由
14		人権各論(6)：参政権・国務請求権
15		定期試験

授業名	スポーツA
Course	Health and Sports A
単位数	1単位
担当教員名	◎笠井 義明 徐 広孝 木村 駿介 藁科 侑希
授業形態	実技
授業の概要	授業計画に定める様々なスポーツを実践することで、スポーツに対する基本的技術を身に付けると共に、それらの理論や指導法についても学んでいく。また、実際の試合を通して個々の技術のスキルアップを目指すと共に、仲間と協力する必要性や重要性を理解する。生涯スポーツとしてのスポーツを一生にわたり実践し、楽しむ工夫を探索し、性別や技術レベルが異なっても、一緒にスポーツを楽しむ方法なども企画・実践していく能力を育成する。
授業の到達目標	スポーツを一生にわたり自ら実践し、心身ともに健康に生き続けるための資質・能力を身につける。また、技術・技能の習得によって自己の成長を促進し、スポーツマンシップやフェアプレイの涵養など、スポーツが文化として定着していることの意味を理解する。
提出課題等	特になし
成績の評価方法・基準	授業への取り組み・到達度（40％）、実技テスト（30％）、最終レポート（30％）によって評価する。
テキスト	随時プリントを配布する
参考書	各スポーツの参考文献を授業中に指示する
履修条件	積極的に各スポーツに参加し、悪質なプレーやフェアプレイに反する行為を行わないこと。 道具を粗末に扱わないこと。 チャレンジ精神を持って授業に取り組める者。
事前学習	授業終了時、次回のポイントを伝えるので、映像を見てイメージを作りをする（1時間）
事後学習	授業のポイントを確認して、良いイメージ作りをする（1時間）
履修上の留意点	スポーツ科学部の学生は原則この「スポーツA」を履修すること。 教職免許取得予定の学生は、必ずこの「スポーツA」を履修すること。 用具の都合上、履修者を40名に制限する。
シラバス自由項目1	様々な動きやフォームチェックのために、遅延再生システム（Lag Mirror）を活用する。
知識・理解【基礎理論】	20
思考・判断・表現【課題】	20
関心・意欲・態度【当該】	30
技能【情報リテラシー】	30

授業計画（テーマ、スケジュール）

No	担当教員	授業内容
1		ガイダンス
2		バレーボール（基本動作とルールを理解する）
3		バレーボール（基本技術の習得）
4		バレーボール（基本技術の習得とゲーム）
5		バレーボール（ゲームと実技試験）
6		バスケットボール（基本動作とルールを理解する）
7		バスケットボール（基本技術の習得）
8		バスケットボール（基本技術の習得とゲーム）
9		バスケットボール（ゲームと実技試験）
10		バドミントン（基本動作とルールを理解する）
11		バドミントン（基本技術の習得）
12		バドミントン（基本技術の習得とゲーム）
13		バドミントン（ゲームと実技試験）
14		総括
15		レポート試験

授業名	運動と健康
Course	Exercise and Health
単位数	2単位
担当教員名	◎笠井 義明 塚本 博之
授業形態	講義
授業の概要	運動と健康の関係について理解を深め、日常生活に活かせる知識と実践を学ぶことを目的とする。運動の基礎知識、健康維持のための方法、実践的な軽運動などを通じて、心身の健康増進を目指す。また、運動の心理的な効果や、生活習慣病の予防に関する知識も学び、健康の保持増進のための実践力を育成する。さらに、健康寿命の延伸に向けた運動の重要性についても学び、高齢になっても自立した生活を送るための身体づくりの基礎を理解する。これらにより、学生が自身の体調を適切に管理し、将来的に継続可能な健康習慣を身につけられるようサポートする。
授業の到達目標	1 運動が健康に与える影響を理解する。 2 健康的な生活を送るための運動習慣を身につける。 3 運動が苦手な人でも実践できる運動を学ぶ。 4 ストレス管理や姿勢の改善など、日常生活に活かせる知識を得る。
提出課題等	第9回「運動を習慣化するための工夫」の際に、健康寿命に関するレポートを課す。
成績の評価方法・基準	課題への取組、プレゼンテーション、定期テスト、授業参加を総合して評価する。
テキスト	教員が資料を随時配布する。
参考書	『運動と健康〔改訂版〕』著者：関根 紀子 出版社：放送大学教育振興会 『健康・スポーツ科学入門 改訂版』著者：出村 慎一、村瀬 智彦 出版社：大修館書店 『運動と健康の科学』著者：田中 喜代次 出版社：市村出版
履修条件	本学において教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として位置付けており、教職課程履修者は必履修科目である。
事前学習	毎回、授業の最後に次回の学習内容を伝えるので、配布するプリントの課題を解き、授業に臨むこと（2時間）
事後学習	授業内容を整理し確実に理解するとともに、参考書を使用するなどして、自発的に学習すること（2時間）
履修上の留意点	実技を伴う場合があるので動きやすい服装で参加すること。
シラバス自由項目1	学生持参のスマートフォンなどにより、授業時に資料調査を行ったり、ウォーキングアプリを取得して活用したりすることがある。
知識・理解【基礎理論】	40
思考・判断・表現【課題】	20
関心・意欲・態度【当課】	30
技能【情報リテラシー】	10

授業計画（テーマ、スケジュール）

No	担当教員	授業内容
1		ガイダンス：運動と健康の関係についての概論
2		運動の基礎知識（有酸素運動・筋力トレーニング・柔軟性）
3		健康維持のための生活習慣（食事・睡眠・メンタルヘルス）
4		ストレッチと姿勢改善の実践
5		呼吸法とリラクゼーション法
6		ウォーキングと軽い筋力トレーニング
7		スポーツ科学に基づくケガ予防
8		ストレスマネジメントと運動の関係
9		運動を習慣化するための工夫
10		身近な道具を使った簡単エクササイズ
11		室内のできる運動（ヨガ・ピラティス入門）
12		運動と脳機能（集中力や学習効果の向上）
13		健康的なライフスタイルを送るための計画作成
14		心肺蘇生法（CPR）の基礎知識と実践
15		定期試験

授業名	子どもスポーツ論
Course	Child Sports
単位数	2単位
担当教員名	◎山田 悟史
授業形態	講義
授業の概要	こどもの健全な心身の発育発達のためにふさわしいスポーツとはどのようなものかを学ぶ。スポーツは単なる運動や体育とは異なる。しかしそれが一般的に理解されているとは言いがたく、スポーツの名のもとに、子どもたちの健全な発育発達を阻害するような活動がなされていることも少なくない。幼少年期のこどもにとって良いスポーツのあり方とは何か、なぜスポーツが必要なのかを、こどもを取り巻く環境や、現代のこどもに生じている心や体の問題などを題材にして学ぶ。
授業の到達目標	1. スポーツとは何かを理解する。 2. スポーツの有用性と危険性を理解する。 3. 子どものスポーツ指導のあり方について、客観的視点を交えて、一定の結論を出す。 4. 子どものスポーツを取り巻く環境について理解する。
提出課題等	ほぼ毎講義、小レポートを課す 2～3回ほど、調査や考察のレポートを課す
成績の評価方法・基準	確認テスト等（80点）、レポートなどの課題や演習等への積極性（20点）
テキスト	なし。
参考書	「いま、子どもの心とからだが危ない」前橋明著（大学教育出版社） 「子どものからだが危ない！」中村和彦著（日本標準） 「スポーツリテラシー」早稲田大学スポーツナレッジ研究会（創文企画） 「運動部活動の理論と実践」友添秀則著（大修館書店）
履修条件	なし。
事前学習	次回の内容について、自身で調べ概要を頭に入れておく。レポートを課された場合はレポートにまとめる。
事後学習	講義の内容について、あるいは講義中に提示されたテーマについてまとめる。 レポートとして課された場合は、レポートとしてまとめる。
履修上の留意点	グループワークなどへの積極的な参加を求める。
シラバス自由項目1	講義中にメール送信による意見発表を行う予定である。
知識・理解【基礎理論】	60
思考・判断・表現【課題】	20
関心・意欲・態度【当該】	20
技能【情報リテラシー】	0

授業計画（テーマ、スケジュール）

No	担当教員	授業内容
1		ガイダンス、授業の進め方、評価の方法 スポーツとは何か1（スポーツの定義、歴史などについて）
2		スポーツと身体、心、脳の発達の関係
3		現代の子どもの心と体の問題 概論
4		体の問題に対するスポーツの影響を考える 子どものスポーツの障害と予防
5		心の問題に対するスポーツの影響を考える
6		子どもを取り巻く社会環境とライフスタイルの変化
7		子どものライフスタイルとスポーツ 子どもの身体活動ガイドライン
8		スポーツとは何か2 (体育、部活動との比較。例：サッカーはスポーツか？を考える)
9		スポーツとは何か3 (スポーツは人間性を育てるか)
10		子どものスポーツ指導の問題
11		勝利至上主義、精神主義とスポーツ
12		子どものスポーツにおける保護者、保育者、指導者の役割を考える
13		子どものスポーツとコーチング
14		子どもにとってのふさわしいスポーツの在り方についてまとめる (幼児の運動あそび・部活・アスリート)
15		総括

授業名	英語 I
Course	English I
単位数	2単位
担当教員名	◎後藤 隆浩 谷野 純夫 五條 愛子 小谷内 郁宏 法月 健
授業形態	講義
授業の概要	国際化、情報化、グローバル化等が進行する社会の中でますます高まる英語の必要性に対応する発信型の英語運用能力の養成を目指す。さらに、学習者が各種英語検定試験に対応できるように基礎力を培う。具体的には、基本例文により英文法の基礎事項を確認する。さらに、様々な演習問題や理解度確認演習に取り組むことにより、日常的に使われる自然な実用的英語表現を習得する。以上の言語活動により、特に英語運用能力の総合的な基礎力を培う。
授業の到達目標	「聴き、読み、話し、書く」の四技能をバランスよく組み合わせた演習を通し、高校までに学んだ語句、文、語法、文法事項を確認し、その習熟を図る。さらに、基礎力を土台に四技能の応用力を養成する。
提出課題等	授業時に適宜、指示をする。
成績の評価方法・基準	定期試験の結果、各課ごとに実施する小テスト（10点満点）の結果、授業時の言語活動の結果を本授業科目のルーブリックに適用し、成績評価を行う。
テキスト	「トランスファー英語総合問題演習コースA 4th edition」（桐原書店）
参考書	授業時に適宜、指示をする。
履修条件	特に条件はないが、第1回の授業に出席して、授業方針及び内容を十分に理解したうえで受講することが望まれる。
事前学習	授業時にテキスト内容等について質問をするので、事前学習を行って授業に臨むことが望まれる。（2時間）
事後学習	授業の最初に既習事項の確認を行うので、事後学習を行って授業に臨むことが望まれる。（2時間）
履修上の留意点	第1回の授業に出席して、授業方針及び内容を十分に理解したうえで受講することが望まれる。 履修制限を40名とする。
シラバス自由項目1	活用する場合は、担当教員より説明がある。
知識・理解【基礎理論】	30
思考・判断・表現【課題】	20
関心・意欲・態度【当】	30
技能【情報リテラシー、	20

授業計画（テーマ、スケジュール）

No	担当教員	授業内容
1		ガイダンス
2		動詞の時制（船の上の学校）
3		文の種類（1）（子どもと睡眠）
4		文の種類（2）（5円硬貨のデザイン）
5		完了（ボランティア募集）
6		助動詞（アメリカで人気の人形）
7		受動態（ジーンズの歴史）
8		不定詞・動名詞（1）（動物はなぜ遊ぶ）
9		不定詞・動名詞（2）（いとこからのメール）
10		分詞（洗濯について）
11		関係詞（1）（エジプトの教育）
12		関係詞（2）（ジョン万次郎）
13		比較（ある少年の夢）
14		さまざまな文型（過保護な親）
15		定期試験

授業名	情報処理基礎 I
Course	Computer Skills I
単位数	2単位
担当教員名	◎青木 優 森田 江美子
授業形態	講義
授業の概要	本授業では、実際に機器を操作しながら、データから有益な情報を読み取るための情報表現の方法とそれを用いた分析方法について学ぶ。データの収集、データの整理、データの加工、グラフ表現の基礎、各種グラフの特徴についてを学んだのち、スポーツに関するデータなどを使って、データ分析やデータ管理を実践的に学んでいく。分析した結果をわかりやすくプレゼンテーションするためのデータ表現方法についても学ぶ。演習は、コンピュータ演習室で実際に機器を操作しながら進めていく。
授業の到達目標	本授業では、生活の身近なスポーツに関するデータやこどもの動向に関するデータを実践的な利用を視野に入れて、データ分析やデータ管理の様々な用途に合うグラフを描けるようになることを目的とする。また、プレゼンテーション資料等で相手の興味を引く美しいグラフが描けるようになることも目的とする。
提出課題等	第9回と第14回に総合演習を行い、その成果物を提出してもらう。
成績の評価方法・基準	第9回と第14回に総合演習を行い、その合計点で成績評価を行う。配点は各50点である。
テキスト	『30時間でマスター Office2021 (Windows11対応)』実教出版、2022年
参考書	なし
履修条件	なし
事前学習	教科書の内容をよく読み、実際にパソコンを動かして予習をしておくこと (2時間)。
事後学習	授業中に学習した内容をもう一度復習し、理解を深めるとともに操作方法を覚えること (2時間)。
履修上の留意点	履修制限50名。 キーボードのタイピングが遅い場合は、事前に練習しておくこと。 基本的には対面授業として実施するが、一部遠隔授業を併用する場合がある。そのため個人で使用できるパソコンを所有していることが望ましい。
シラバス自由項目1	毎回の授業でパソコンを使用する。
知識・理解【基礎理論】	10
思考・判断・表現【課題】	0
関心・意欲・態度【当該】	20
技能【情報リテラシー】	70

授業計画 (テーマ、スケジュール)		
No	担当教員	授業内容
1		授業ガイダンス、大学ICT環境の説明、SSU-Mailの利用方法、タッチタイピング
2		情報検索、データ収集、ワープロソフト (1) 簡単な文書の作成
3		社会におけるデータ・AI活用、ワープロソフト (2) 文書への表と画像の挿入
4		データ・AIを扱う上での留意事項 (データ倫理、個人情報保護、AI社会原則)、プレゼンテーションソフト (1) 簡単なスライドの作成
5		データを守る上での留意事項 (情報セキュリティ)、プレゼンテーションソフト (2) 表や画像の挿入、表計算ソフトとの連携
6		表計算ソフト (1) 簡単な表計算
7		表計算ソフト (2) グラフの作成、ワープロソフトとの連携
8		表計算ソフト (3) 条件判定、検索関数、並べ替え、フィルター
9		総合演習 (1) Officeソフトの活用
10		データリテラシー (1) データの種類 (量的変数、質的変数)、代表値と散布度
11		データリテラシー (2) 四分位と箱ひげ図
12		データリテラシー (3) 列見出しのルール、データの編集、単純集計、クロス集計
13		データリテラシー (4) 散布図、相関係数
14		総合演習 (2) データリテラシー
15		総括